

MS・キャラクター・ヒストリー —— 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

GUNDAM

PERFECT FILE

定価 590円

2011/11/29

8

MECHANIC FILE

シャイニングガンダム/
プロヴィデンスガンダム/シン/
グフ・フライトタイプ/G-3ガンダム/
サイコミュ・システム高機動試験機

PERSONAL PROFILE

ドモン・カッシュ/
レイン・ミカムラ/
フウ・ル・クルーゼ/
ザフトの兵士たち

WORLD GUIDE

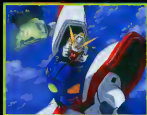
ガンダムファイト/C.E.のMS/
AMBACシステム

C.E. TIMELINE

「砂漠の」との遭遇



ドモン・カッシュ



ガンダムファイト

今週のMS①

GF13-017NJ SHINING GUNDAM



DeAGOSTINI

deagostini.jp

光の輝く掌で敵を粉砕するネオジヤパンのVI!

GF13-017NJ

シャイニングガンダム

SHINING GUNDAM



機部

ネオジヤパン古来の武運や運命を取り入れた意匠が特徴で、「俺」や「俺」などを体現していたとされる。パドル、スーパーモード時にはフェイスカバーが展開して強制冷却が行われる。



胴体

胴体ユニット中央にモビルレーズシステムコクピットを配し、胴部にはエネルギーマルチブレイヤーと呼ばれる機構を備える。後者は、後述する「刃」を繰る機能に関連するシステムである。

脚部

股関節にスラスターが内蔵されており、機動時に装甲が展開してユニットが露出する。また、スーパーモード時には各脚が変形し、つぎ先がスライドして展開し、かかとのアウトリガーが回転して接地する。



SPEC

全高	16.2m
質量	6.5t
ジェネレーター	---
スラスター	---
装甲材質	スーパーセラミック複合材 / レオマタル / ハイブリッド多層材
武装	頭部バルカンガン×2 / マシンキャノン×2 / ビーム・ソード×2 / 爆薬弾
所属	ネオジヤパン
操縦者	ドモン・カッシュ / レイン・ミカムラ

COMPARISON CHART



COLOR



コア・ランダー

コア・ランダーと呼ばれる小バナー機が変形して機体に連結し、バックパックとなる。また、脱出装置として用いることも可能で、コア・ランダー内でも機体は動かせるようだ。

感情を力に転化するシステムを備えた画期的なMF

GF13-017NJ シャイニングガンダムは、ガンダムファイト第13回大会に向けて開発された、ネオジヤパンのモビルファイター（MF）である。ガンダム開発局に所属するウルベ少佐主導の下、ミカムラ博士が手掛けた本機は、搭乘するガンダムファイターの感情に応じてモードを変更するシステムを搭載している。これは他のMFには見られない画期的な仕様で、本機はこのモード変更によって戦闘力の大幅な向上を実現していた。また、すべてのアビリティポイントのバランスにも優れ、搭乘者に選ばれたコロニー格闘技の覇者、ドモン・カッ

シュの技量を申し分なく発揮しうる性能を有していたのである。

ガンダムファイト第13回大会に出場した本機は、サバイバルレブンの激戦を勝ち抜き、ギアナ高地においてデビルガンダムやGF13-001NH-II マスターガンダムと交戦。明雄止水の境地に達したドモンによって、真のスーパーモードを発動させるに至る。しかし、エネルギーを使い果たして限界を迎え、それまでの戦いで蓄積したデータをGF13-017NJII ゴッドガンダムに移した際に、機能を停止したのだった。

関連ファイル

GF13-017NJII ゴッドガンダム	GG-01-02
ドモン・カッシュ	GG-02-01
レイン・ミカムラ	GG-02-02
サバイバルレブンの①	GG-03-03
MF「デビルファイター」	GG-03-12
F.G.007の世界	GG-03-16

FILE PREVIEW

GG03-12 MF「デビルファイター」

ガンダムファイトに参加する各機が展開した機体の細部、レギュレーションに応じた仕様や設定されているなど、製作現場には多くの資料が用意されている。



GF13-017

機体構造

ファイターの状態を読み取る繊細なシステムと、機体に掛かる負荷

本機はモード変更によって機体の一部が変形する構造を採用しており、それによって機体性能が段階的に向上する。また、東洋の気功のように「気」を機体各部にも有していたとされ、胸部エネルギー・マルチプライヤーの発動に伴ってアーティフィシャル・オー・ジェネレーター（AAO＝人工気発生装置）が起動するシステムとなっている。

しかし、これらの機構は本機に高い耐震力を与える一方で、機体に多大な負荷をかけた。感度の敏化をバックアップするデブリートに仕組に加え、ファイターであるドモンは静と動の「気」の振り幅が極めて大きく、これらのシステムが経路に搭載されたコンピューターなどに負荷を強いていたことは事実だった。頭部の強制冷却機構も、過負荷を防ぐための備えであったと言える。



本機はモード変更によって機体の一部が変形する構造を採用しており、それによって機体性能が段階的に向上する。また、東洋の気功のように「気」を機体各部にも有していたとされ、胸部エネルギー・マルチプライヤーの発動に伴ってアーティフィシャル・オー・ジェネレーター（AAO＝人工気発生装置）が起動するシステムとなっている。

カングムファイター以外は機体を倒しておき場合が多かったため、ランダーは移動手段としても用いられる。



■ モビルトレースシステムコクピット



第13回大会時のMFに共通するコクピットシステム。ファイティング・グロウのセンサーがファイターの動きを感知し、それをMFが空気に伝達する。

■ 胸部アーマー内構造



胸部アーマー（アーマー）内には打撃力を増強する2基のブースターを備え、手前側にはゼム隆（サイニング・フィンガー）を有する。



■ コア・ランダー

反応機構と方向性を備えるコア・ランダー。機体は動作で変形し、コア・ランダーのエネルギーを用いて機体を自動操縦することも可能。右図は操縦席。



■ 腰部スラスター

腰部スラスター（シュートブースター）は3基のノズルが連なる構造で、主に機体などに用いられるが、デスアーム1程度の機体にも搭載されている。



武装

ドモンの戦闘スタイルを最大限に発揮させる武装と必殺技

コロコ 格闘技のチャンピオンであるドモンをファイターとする本機は、その戦闘スタイルを再現する性能を有しており、言わばドモンの格闘能力そのものが最大にして最強の武装であった。それを象徴する本機の必殺技が、「シャニング・フィンガー」である。これは液体金属で覆ったマニキュレーターで指先を破壊する技で、衝撃波のようにエネルギーを放射することも可能だった。さらに、シャニング・フィンガーのエネルギーをビーム・ソードに集束させて撃ち付ける、「シャニング・フィンガー・ソード」と呼ばれる技も存在する。また、ドモンが刀剣術を得意としたこともあって、固定武装の「ビーム・ソード」が頻りに用いられていた。

一方、腰部バルカン砲や胸部マシンガン、胸部ビーム砲などの固定武装も装備されているが、ドモンの戦闘スタイルでは重視されなかった。また、GF-13-055NM ネロスガンダムとのファイトでは、爆撃弾を用いている。



高い機動性を誇るガンダム・マックスと互角に渡り合うだけのパワーを持つなど、高い基本性能を有している。

■ ビーム・ソード



サイズが真なる52巻のビーム・ソードを模倣。機体はアーマーにまとめて収納される（右）。その威力は、デスアーム1を力押しするほどであった。



■ 腰部バルカン砲



バルカン砲はこめかみ部分に2基搭載されている。主に機体などに用いられるが、デスアーム1程度の機体にも搭載されている。

■ シャニング・フィンガー



伸長した指関節の間隙から液体金属が流出され、そのエネルギーで敵Aの指先を破壊する。この技を使用する形態を「リトルモード」と呼ぶ。



■ シャニング・フィンガー・ソード



両腕のシャニング・フィンガーのエネルギーを集中することで、最大威力を形成する必殺技。最大出力のスーパーモードでのみ使用可能となる。

MORE INFO!

スーパーモード

シャニング・フィンガー使用時のバルモードを超えた最強の形態が、この「スーパーモード」である。[都立]の機体制御システムとして発動するこのモードは、圧倒的な力を発揮する反面、取り入れの難しさを生む危険性はあった。



スーパーモードは最大出力のエネルギーを集中し、シャニング・フィンガーの能力によって破壊された環境に達したドモンは真のスーパーモードを発動させ、機体を変換した。



■ スーパーモード（通常時）

大型の力に連なる造機が周囲に。胸部アーマーがスライドしてエネルギー・フィールドジェネレーターが起動する。胸部と腕部のアーマーも変換され、戦闘力が大幅に向上する。



■ スーパーモード（明滅止水時）

明滅止水時には機体が金色に輝く。真のスーパーモードでの機体、マスターガンダムを圧倒するほどの戦闘力を見せ付けた。



THE OFFICIAL

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

GUNDAM

PERFECT FILE

8



MECHANIC FILE

シャイニングガンダム /
フロウデンスガンダム / シン
グフ・フライトタイプ / G-3ガンダム /
サイコミュ・システム高機動試験機

PERSONAL PROFILE

ドモン・カッシュ / レイン・ミカミラ /
ラウ・ル・クルーゼ /
ザフトの兵士たち

WORLD GUIDE

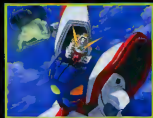
ガンダムファイト / C.E.OMS /
AMBACシステム

C.E.TIMELINE

「砂漠の虎」との遭遇



ドモン・カッシュ



ガンダムファイト

©前田・サンライズ
©前田・サンライズ・毎日出版

今週のMS①

GF13-017NJ SHINING GUNDOAM


4910205651111
00562

雑誌 20565-11/29 通巻8号
2017/3/1 2011年11月29日発行

発行所—デアゴスティーニ 定価 590 円

本体 562 円





GF13-017NJ

SHINING GUNDAM

シャイニングガンダム

MS・キャラクター・ヒストリー——全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL

通刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

GUNDAM

PERFECT FILE

定価 590円

9

「機動戦士ガンダム」の
ジュアック・アックガイ
アグリッサ・アヘッド
ガンダム・ユニオンフラッグ

「機動戦士ガンダム」の
アグリー・アル・サーシェス
ビリー・カタギリ

「機動戦士ガンダム」の
シャア専用ズゴック

「機動戦士ガンダム」の
ジュアック・アックガイ

「機動戦士ガンダム」の
アグリッサ・アヘッド

「機動戦士ガンダム」の
ガンダム

「機動戦士ガンダム」の
ユニオンフラッグ

「機動戦士ガンダム」の
アグリー・アル・サーシェス

「機動戦士ガンダム」の
ビリー・カタギリ

「機動戦士ガンダム」の
シャア専用ズゴック

今号から
MSM-4/5「ガンダム」の
カスタム

DEAGOSTINI deagostini.jp

第9号

定価 590円
(税別)

11月22日(火)発売

※価格によって発売日・内容などが変わります。



ビリー・カタギリ



ユニオンフラッグ

お買い忘れなく安心! 発売日をメールでお知らせします!

発売日お知らせメール

PC用 <http://deagostini.jp/oshirase/gpt/>
携帯用 <http://deagostini.jp/gpt/> 携帯用QRコード

ご注意ください



COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第9号 ラインナップ

MECHANIC FILE

メカニックファイル

シャア専用ズゴック

ジュアック・アックガイ

アグリッサ

アヘッド

ガンダム

ユニオンフラッグ

PERSONAL PROFILE

パーソナルプロフィール

アムロ・レイ

ミハル・ラトキエ

ミハル・ラトキエ / 民間人(名義)

アグリー・アル・サーシェス

ビリー・カタギリ

WORLD MAP

ワールドガイド

シャブロー

西暦2307年の紛争

AD TIMELINE

西暦年表

トリニティ、降臨

GLOSSARY

ガンダム用語辞典

「機動戦士ガンダム」用語集

週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」特製リングバインダーの利用方法



1 週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」を各ページごとに、正しい向きに挿入します。



2 バインダーを使って、各ページの裏面に付いている、各ページをファイルナンバーにして、リングバインダーに挿入します。



3 各ページのようにして、全てのページをファイルナンバーにして挿入します。



4 各号集めると、ガンダムのことがすべてわかる、ビジュアル大百科になります。

切り出した表紙を大切に保管できる!

オリジナルデザイン
「表紙用
ポケットファイル」
発売決定!!

※おかげで1冊あたり100円前後、お買い得価格で販売予定です。

週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」全巻プレゼントの応募まで。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定額購読用のお知らせを参照下さい。
千草監製3号については全巻プレゼントの応募ハガキにおいて、応募締切期に限りがあります。正しくは、2013年1月末日必となります。

特殊武装 宇宙空間戦闘で優位を誇るドラグーンシステム

Disconnected Rapid Armament Group Overlook Operation Network System (分離式統合制御高速連動兵器ネットワークシステム)の略文字から「ドラグーンシステム」と呼ばれる。これは攻撃力と推進力を備えた端末「ドラグーン」を量子通信によって制御。それぞれの端末が個別に目標を攻撃する。これにより全方位攻撃が可能となり、宇宙空間で圧倒的なアドバンテージを持つ。

開発当初は量子通信技術が未成熟であったため、端末から分離した兵器の位置を把握するための確れた空間認識能力を必要とした。そのため一部の人間にのみ伝えている。



目標に対して多方向からの同時攻撃は時間差での攻撃を繰り返すため、回避は非常に困難。量子通信で制御するも、ニューロリンクマーカーに感知されずに使用できる。



A

A ドラグーンシステム

ドラグーンシステムの基盤はスラスター付きバックパックとして機能する。各ドラグーンのプラズマフィールドで、エネルギー供給を行う。装置には大型スラスター基、小型スラスター基が搭載している。



■ ドラグーン

ビーム砲門の大型タイプと2門の小型タイプがある。姿勢制御、方向転換用のスラスターを備え、ビーム融合として機能。空宙は大型タイプ。



バックパックに搭載されている小型のビーム砲門は、分離して使用できる。分離後は可動式で、機体前方に向けて攻撃することも可能。

武装

ドラグーンシステムとの併用で真価を発揮する各種武装

ZGMF-Xシリーズのフリーダムとジャスティスは、中距離戦闘に優れた共通のビームライフルとビームソードを携行武装として与えられた。しかし本機には、専用の大型ビームライフルが用意され、ドラグーンシステムと併用することで高い威力を発揮した。このように、ドラグーンシステムの存在を前提として運用され、武装の性能を最大限に発揮する。



ビーム砲とビームサーベルを内蔵するビーム砲は、機体の前面に配置して攻撃に切り替え可能。ドラグーンシステムとの併用によって、威力の向上が図られている。

■ MA-M221

ユーディキウム・ビームライフル



コズミック・リィ (C.R.) 71 当時のM2Sは進行できる中では最大の火力を持つ大型のビームライフル。後部砲門を兼ねるように設計するための形状が特徴。

■ MA-V05A 複合兵装防盾システム



プロパティスの装置に似ているクロス、グレイズ2連装のビーム砲の両方。中央にビームサーベルの発射口を持つ。その発射はビーム砲を2門発射する。

機体構造

ドラグーンシステム導入に向けた様々な改修

ドラグーンシステム導入に際し、機体各部の改修が行われた。内部機構に金制ベースがなかったドラグーンシステムの基盤はバックパックを併用。動力は設置したチューブを經由して本体から供給する。また、スラスターの出力強化や増設により、重量の増加と機体の大型化による機動性と運動性の低下を防いでいる。

■ 胸部 胴体部



ドラグーン分離時の姿勢を固定するためのスラスターとして機能。分離後はスラスターに切り替え可能。分離後はスラスターに切り替え可能。

バックパックを外した状態。機体のジョイントからチューブを露出させる。ドラグーンシステムの動力を確保している。

■ 頭部



MW-GAUZ 2ビーム76mm連射防弾機能付きの頭部の両側に2つのセンサーが搭載されている。主に制動装置として用いられている。

■ 足裏

ザンギの足のM2Sとは別に設置。機上での運用に必要とした足裏は後部砲門を兼ねる。フリーダムと比べ201度近く上向きに変える機構を備えている。

■ コクピットハッチ

フリーダム、ジャスティスは機体の上部に設置されているが、プロヴィデンスのコクピットは機体下部に設置されている。



MORE INFO!

ドラグーン装備機

プロヴィデンスの機体によりドラグーンシステムの運用性は証明された。以後も同システムの搭載機が開発された。後継機としてプロヴィデンスの改良型が存在。一方、オーガで運用された機体は、スライク・フリーダムには発展型のスーパードラグーンが搭載されている。



XAストレイのドラグーンシステムはガンダムシリーズの発展型として開発された。この発展型はプロヴィデンスのドラグーンシステムが原型となっている。

XAストレイ

ドラグーンシステム「XM1」プロパティス・ビームサーベルを装備した「YMF-X000A ドラッグノット」の発展型として開発された「XAストレイ」が各機に搭載されている。

ZGMF-1017

ジン

GINN



Z.A.F.T.

■ SPEC

全高	21.43m
重量	78,50t
スラスター数	2
スラスター出力	1000000W
装甲材質	鋼
武装	MMI/MSA3 76mm重突撃砲 M69 パルス式特火量枝子砲 M A M3 重砲刀 M68 キャットパズ mm弾反動砲 M68 キャットパズ 弾誘導弾発射機x2, M68 パルデ ス3連装弾頭式連発弾発射機x2 スナイパーライフル
所属	ザフト
機体色	ミゲル・ダイヤモンド

■ COMPARISON CHART

20m	15m	10m	5m	0m
20m	15m	10m	5m	0m
20m	15m	10m	5m	0m
20m	15m	10m	5m	0m
20m	15m	10m	5m	0m

■ COLOR

GRAY	LIGHT BLUE
WHITE	ORANGE

胸部

胸部を保護する装甲が設置されているが、その内側にはスラスターノズルを備える。これにより、宇宙・大気圏内双方で高度な機体制御が行えた。

頭部

頭部にはサカサの機体収容機構、多機能センサアレイを備えているのが特徴である。また、メインカメラは左右に可動するモアアレイを採用しており、戦場をリアルタイムで把握できた。

胸部

胸部の先端に、複数の射撃兵器・格闘兵器を運用できる6本のマニピュレーターを有する。人間と同様、すべての指を離脱に利用できることが可能であった。

背部

背部に搭載されたバックパックには、本機の駆動力を担う2基の大型スラスターが備えられている。スラスターを保護するカバーも大型であった。

プラントの技術力が結実した高汎用MS

地球連合軍との関係が悪化していたザフトは、圧倒的な物量差を覆すべく、新たな兵器の開発に取り組んでいた。ザフトが軍事組織としての活動を開始させたコスミック・イラ(C.E.)67には、外骨格・補助動力装備の宇宙作業用をベースとした戦闘用MS(モビルスーツ・プロトジン)をロールアウト。その能力に自信を得たザフトは、プロトジンをブラッシュアップし、初の制式量産機となるジンを作成させたのである。

ジンは、ザフトのMS開発チームのひとつであるハインライン設計部が開発された。宇宙・地上双方で運用で

きる優れた汎用性に加え、実弾式の射撃兵器や実剣、バズーカなど、多彩なオプション武装が用意されている点も特徴であった。その性能は、当時地球連合軍の主力であったMA(モビルアーマー)・メキシスの5機分に相当するとも言われたのである。

C.E.69、ザフトは量産したジンに対地球軍戦に実戦投入し、その戦闘力で地球軍MA部隊を次々と撃破。ザフトの軍事力の象徴として、地球軍から恐れられた。「血のバレンタイン」事件に端を発したC.E.71の戦乱でも、ザフトの主力機として運用されている。

関連ファイル

ZGMF-600 イヴァン / ZGMF-515 シグマ	SEED 01-15
ザフトのMS兵器①	SEED 01-17
ザフトのMS兵器②	SEED 02-17
ザフトのMS兵器③	SEED 03-17

FILE PREVIEW

SEED 01-17 ユウ・キョウジ



ザフトのカラーリングに所属するミゲル・ダイヤモンドは、ヘリコプターでの「G」機体作戦にも参加。スラスターを駆動する際のジンと出撃するが、敵軍を撃たない。

武装 戦況に応じて使い分けられた武装群

本体に固定火器が設置されていないジンは、戦況や環境に応じて武装を換装する方式を取っていた。基本武装は銃床撃機銃と斬新刀による中距離・近距離戦闘用装備であったが、対艦戦用である無反動砲や対MS砲撃用のスナイパーライフルなども用いられていた。またD装備と呼ばれるミサイルランチャー・バックも有する。

■ D装備

M66 キャノン距離砲導弾発射機(上部)

M68 ハルデウス3連装榴弾砲導弾発射機(下部)



DはDESTRUCTION(破壊)を構成する3文字のサイレンサーで、機体外部のハードポイントに設置する。ボルト3連装のミサイルを収容できる構造であった。



D装備を構成する機体外部のハードポイントに設置する。ボルト3連装のミサイルを収容できる構造であった。

■ MA-M3 斬新刀



ザフトの兵器開発企業であるアーセナル社が開発した格闘兵器。優れた分子加工技術の賜とあって、対MS戦闘ならば両腕でもおこなえ持つ。

■ M68 キャットゥス500mm無反動砲



地方支援や対艦戦に用いた大型のバズーカ。自身を軸に撃てて運用する。銃床で運用は少ないが、砲身の構造も決して悪くない。電装が一層で済めるほどの砲撃力を持っていた。

■ MMI-M8A3 76mm 重突撃機銃



76mm口径の重突撃射撃兵器。セゾーとフルオートモードがあり、セゾーは連射射撃に、フルオートは連射に設定している。

■ M69 パルルス改火重粒子砲



ザフト製としては珍な非火薬式火器。試験段階の大型弾薬のバズーカや砲に比べて運用性に劣ったため、あまり使用されることはなかった。

■ スナイパーライフル



遠距離からの精密射撃と運用する特殊火器。空襲や遠距離戦を呼びかけるに使用。また、高速度弾頭弾薬搭載の近接兵器となった。

機体構造 あらゆる環境での運用を視野に入れた基本構造

ザフトは、フロントの防衛と共に、地球圏での戦力維持・拡大を可能とする戦力を欲していた。そのためのジンは、宇宙・地上両方で運用することを前提に、優れた機動性や運動性能を確保していたのである。また機体構造の連携を行うため、プロトジンはなかったセンサーアレイを新たに設置し、通信機能を高めている。



ジンは人間であるため、地球圏での運用に必要となるセンサーアレイは、MSの開発に決定したのだ。

■ 頭部

ヘルメット型の頭部から、センサーアレイが露出(固定)している。その基部にもサブカメラが設置され、モビリティと高速度での視覚認識能力を向上した。



■ 側面・背面

機体の側面(左)は、バックパック(右)と、背板(中央)のバックパック(右)の3つの部分で構成されている。バックパックは、Zinnの戦闘性を高める役割を担っている。

■ 足裏

地上での運用を想定して、浮遊性・安定性に優れた構造となっている。ただし、軽量で機体の上部構造ではその性能は発揮されないと見られる。



■ 胴体

胴体のセンサーアレイは、視覚認識用のハードポイントで構成されている。このセンサーアレイは、視覚認識用のハードポイントで構成されている。



■ コクピットハッチ

胴体中央にパイロットが乗るコクピットを配置。ハッチは二重扉で開閉し、パイロットの生存性が高まっている。

コクピット ザフトの制式コクピット

ジンに用いられたコクピットは、左右にレバー、下部にフットペダルを有する仕様である。また、カメラから送られる映像を3面のディスプレイで確認することができた。パイロットの操作をサポートするOSも使われていたため、その後のザフト製MSの大半に採用された。



ジンに採用されたOSは、コーディネイター用に最適化されていた。そのため、ザフトの一般兵ならばその性能は発揮されないと見られる。

■ シート側



■ モニター側



MORE INFO!

GE 671にロールアウトした、戦闘用MSの試作1号機(型式番号:YMF-01B)。ジンの祖である。これは、全体的にマシンがなめらかな運動性で、モビリティを確保する変性の存在。センサーアレイのない構造などである。ジンは変更されて以降、新機用として用いられた。



機体形状や基本構造はジンとほぼ同じである。また、士官学校での訓練機として使用されていた。GE 671時でも運用が確認されている。

センサーアレイが、光を感知する。また、モビリティが向上した。また、モビリティが向上した。また、モビリティが向上した。



プロトジン



単独飛行能力を獲得したグフ系列機

MS-07H-8

グフ・フライトタイプ
GOUF FLIGHT TYPE

頭部

頭部ユニットは口部が狭く正面6向いており、関節部がやや下方に向かっていたMS-07H系列の前機とはやや異なっている。全体の形状もシャープで、MS-07B-3 グフ・カスタムとの共通性が見られる。頭部にはフレードアンテナを備える。

胴部

胴体ユニットの各部位はMS-07B-3に類似しているが、機首中央のクワッドコックピット前蓋はMS-07A フォーセイブ・グフに似た形状となっている。また、リアスカート部分には公敵の大型スラスターを備える。これはMS-07H系列機に共通する構造である。

ランドセル

2基のスラスターを備えるランドセルは、当時の一般的な機体と比べて大型である。基本構造は前機機から大きく変わっていないが、動力パイプの接続位置が変更されており、機首スラスターと連結する動力パイプが目立たない構造になっている。

SPEC	
全高	(頭頂高) 16.2m
機重	81.5t (全備重量 77.6t)
スラスター出力	1,130kW
スラスター推力	108,400kg
装甲材質	超硬スチール合金
武器	ガンダム・シールド・ヒート・サーベル 3連装ガンリング砲
所属	ジオン公国軍
開発者	不明

COMPARISON CHART		COLOR	
20m		LIGHT GRAY	Dark GRAY
15m		BLACK	ORANGE
10m			
5m			
0m			



挑戦的なMS開発が結実したグフ飛行試験型の最終形

MS-07H-8 グフ・フライトタイプは、MS単体での飛行能力獲得を目指したMS-07H グフ飛行試験型に類する系列機の最終形とも言える機体で、単独での大気圏内飛行が可能とした数少ないMSであった。

一年戦争当時、ジオン公国軍は大気圏内におけるMSの戦闘行動手段(航続距離)の拡大を課題視し、航空機(ド・タイヨ)との連携運用によってその欠点を補おうとした。一方で、MS自体を単独で飛行させるという試みにも着手し、軽量性に便れるMS-07 グフ系列機をベースとした試作を進めた。製作された複数の試作

機はことごとくトラブルに見舞われたが、その中でもMS-07H-4 グフ飛行試験型(H4型)は比較的良好な試験結果を残した。その設計コンセプトを継承し、単独飛行を実現した機体が、このMS-07H-8だった。

8番目のMS-07H系列機にあたる本機は、前機機の熱核ロケット・エンジンに替えて熱核ジェット・エンジンを採用し、安定した飛行性能を獲得している。また、改良によって空中での姿勢制御能力もH4型から向上している。技術的な問題は依然として残っていたものの、充分実用に耐えうる性能を有していたのである。

関連ファイル

MS-07B グフ	FG-08-10
グフA型(機首の機体)	FG-08-11
MS-07C グフ飛行試験型	ASB-FG-02-22
ジオン公国軍のMS開発	FG-03-16
ジオン公国軍の軍事企業	FG-03-10

FILE PREVIEW

FG-03-15 ジオン公国軍のMS開発
MSを開発したジオン公国軍は、当時最新の技術力を持つことに成功し、地球開発戦線に参入。機の下台機や水陸両用機などを実用化し、戦線に投入した。

機体構造・特殊装備

MS-07H-4の設計を発展させた機体各部の構造と装備

大気圏内飛行能力を維持するため、MS-07H系列機には推進器を強化すると同時にさまざまな改修が施された。系列機の開発において、当初は熱機ロケット・エンジンの大出力によって機体を（いわゆる強引に）飛行させるコンセプトが採られていたが、H4型ではそれに加えて空力特性を考慮した機構が取り入れられた。本機では、H4型の設計をベースとして細部に改良を加えることで、より高度な飛行能力を実現した。しかし、推進剤容量や熱機ジェット・エンジンの冷却問題など、克服が困難な技術的難題が存在していたこともまた事実であった。



ラサ基地からの上昇時には、富士山頂の雲を突破し、大気圏外から最終、ヘリコプターに近い推進剤容量を有していたMS-07H-8より高度が低かったとされている。

A 肩部整流板

整流板は円錐に近い形状で、整流板が配られている。飛行時に発生する乱流を抑制して機体を安定させる整流効果は、H4型から継承されたもので、本部からの指示で追加されたといわれる。



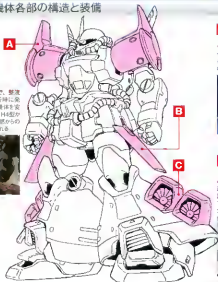
B 腰部・背部 スタブライザー

サイバー・スローター・モーターセルには、可動式のスタブライザー（安定翼）またはヘンタウラフと（も呼ばれる）が装備されている。



C 脚部 エア・インテーク

4基の熱機ジェット・エンジン内蔵する脚部には、前部と後部に計6基のエア・インテークを配置している。これは前部機に比べて大化している。



武 装

飛行能力の向上によって可能となった携行武装の運用

本機以前のMS-07H系列機は、飛行時の安定性を考慮して左右対称の固定武装を装備していた。しかし、本機は改良によって安定した飛行性能を誇られたことから、柔軟な運用が可能で緊急時に容易に排除できる携行武装が採用されている。これらの武装はMS-07B-3のものと同型で、共用されていたと見られる。なお、腰部はMS-07Bと同様、5連装75mmフィンガー・バルカン砲に換装することが可能だったとされている。



ラサ基地で運用された機体には、ガンリグ・シールドが装備されていた。ただし、攻撃に耐える、ヒート・サーベルや3連装ガンリグ砲の装備は確認できない。

■ ガンリグ・シールド



本機部に75mmのガンリグ・シールドを装備。ガンリグ砲の威力が豊富で、敵対機の機体に与えるという利点はあるが、機体の片側が加えられるという欠点もあった。

■ ヒート・サーベル

ガンリグ・シールドのヒート・サーベルをウエッジ状とすることが、飛行中に空母機が受けるダメージを軽減する。これは確認されていない。

■ 3連装ガンリグ砲

3連装ガンリグ砲は口径35mmで、前部部に装備する。ガンリグ・シールドと同様に、マウントすることも可能だが、基本はガンリグ・シールドのみで運用されたよう。



運 用

アプサラス計画における運用例

本機の開発はジオン公国本部のサイド3で進められたとされる。判明しているだけで2機が戦闘に投入されている。それらが配備されたのは「アプサラス計画」の開発拠点となった東南アジアのラサ基地で、計画の責任者であるニクス・サバに技術少尉によって7機が移された。同基地にいて彼の指揮下で組み立てられたとされている。この2機はアプサラスの運用用として持ち込まれた機体

ラサ基地に到着したアプサラス計画に、基地は、その開発を助けた。ただし、直接にアテナの交差点で戦闘に巻き込まれたため、交戦はしていない。



ケルグレンに到着する機体のMS-07H。アテナの交差点で7機が配備された。アプサラス計画の運用を、現場からの報告を試みる。



2機のうち1機は戦闘中にアテナに到着した。アテナの交差点で7機が配備された。アプサラス計画の運用を、現場からの報告を試みる。

MORE INFO!

戦後のMS-07H系列機

本機の派生型にあたるMS-07H+8は、一年戦争終結後に地球連邦軍によって回収され、近代化改修を施した上で少数が量産された。それらはジャブロー・基地に配備され、グリプス戦役の際のエネルギーによるジャブロー・基地地下作戦において、防衛能力として運用されている。

MS-07H グフ飛行試験型

MS-07H系列機の中で最初に製作された機体。空力特性を重視して、十分な速度を維持できなかった。機体は空母が搭載した機体はホバー飛行が可能な機体として運用された。アテナ・バースは装備された。



機体構造

ニュータイプ仕様の試験機

地球連邦軍のMS開発プロジェクト「作戦」によって誕生したRX-78 ガンダムは、仕様変更が複数存在する。その第1仕様機であるRX-78-1 プロトタイプガンダムの1-3号機はサイド7で仕様変更が行われ、このうちの1機がホワイトベース隊のRX-78-2 ガンダムとなった。そして、このRX-78-2の予備機さらに仕様変更ししのがG-3ガンダムである。G-3ガンダムの機体構造の特徴は、ニュータイプ仕様への設計変更が挙げられる。マグネット・コーティング処理を施しただけなら、新型の教育コンピュータ(MICシステム)、熱反応応用レーザー加速器を搭載、従来機の2倍の運動反応を実現しとも言われる。この機体の実験データは、RX-78-2ガンダムのマグネット・コーティングとしてフィードバックされたほか、一年戦争末期に投入予定であったニュータイプ仕様の機体RX-78NT-1 アレクサスの開発にも活かされた。



両足間に腕が見えるカラーのMSがG-3ガンダムとされる。G-3はその後、機体性能の向上が図られている。基本武装においてはRX-78-2ガンダムとの違いはない。頭部バルカン砲が2門とビーム・サーベルを2本を固定装備とし、機体武装としてビーム・ライフルやシールドを装備した。機体武装としてビーム・ライフルは他のMSと比べて圧倒的なアドバンテージを持っていた装備だけに、試運転の機体は2の次であったことが想像できる。ちなみにRX-78-2ガンダムの機体武装がすべて運用可能であったことには異なると、ハイパー・バズーカ、ガンダム・ハンマーなどを使用した可能性もある。ただし、運用履歴においては明確な資料がないため、すべては推測の域を出ないのが現状である。

武装 RX-78-2ガンダムとの共通武装

G3ガンダムは、新技術を徹底的に採用したことにより機体性能の向上が図られている。基本武装においてはRX-78-2ガンダムとの違いはない。頭部バルカン砲が2門とビーム・サーベルを2本を固定装備とし、機体武装としてビーム・ライフルやシールドを装備した。機体武装としてビーム・ライフルは他のMSと比べて圧倒的なアドバンテージを持っていた装備だけに、試運転の機体は2の次であったことが想像できる。ちなみにRX-78-2ガンダムの機体武装がすべて運用可能であったことには異なると、ハイパー・バズーカ、ガンダム・ハンマーなどを使用した可能性もある。ただし、運用履歴においては明確な資料がないため、すべては推測の域を出ないのが現状である。



RX-78-2 ガンダムが使用したビーム・ライフルは、G-3ガンダムにも採用されている。このとき、まだ機体武装は「戦艦」と呼ばれていた。

RX-78ガンダム各仕様発展系図

RX-78-1 プロトタイプガンダム

設計・仕様変更

RX-78-3 G-3ガンダム

研究データ
フィードバック

サイド7で改修

マグネット・コーティング

RX-78-2 ガンダム

(G-3仕様)

ビーム・ライフル



MS用機体用ビーム兵器。エネルギーCAPの採用によりビーム兵器の小型化が実現し、従来のMSに採用された、巨銃型の威力を誇った。エネルギーの消費を抑えるため、充電が必要である。

ビーム・サーベル



ビーム・ライフル同様、エネルギーCAPの採用により実用化された近距離用ビーム兵器。戦士ビームは放射状によって「刃」が形成される。

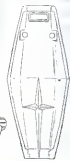
頭部バルカン砲



ガンダムに2門の頭部バルカン砲は、60mmのバルカン砲。MSの中では最も周りに使用される程度の威力だが、対人兵器や対空兵器としての側面もある。

シールド

RX-78タイプの新規と異なる。ステータムを含まない。攻撃の強化と防御の強化に効果的である。状況によっては展開式にも運用できた。



ハイパー・バズーカ

RX-78タイプ用の実験兵器。ビーム・ライフルの連射数は16回(15回以下は、12回以下は0回)と限定されており、機体には16回の射撃回数が必要であった。G-3にも配備されたと考えられる。



MORE INFO!

マグネット・コーティング

モスク・ハン博士の独自理論によって開発されたMSの運動反応の反応速度向上させる技術が、マグネット・コーティングである。機体表面を電磁気を含み込むことで、機械的な摩擦を打ち出し、理論上は反応速度を無限に速くするとした。この革新的な新技術のテストベグとなった機体がG-3ガンダムであった。この理論がアパオク・クローニングなどにおけるRX-78-2ガンダムの活用によって実証されたこと、一年戦争後には様々なMSに採用された。



マグネット・コーティング後、RX-78-2ガンダムは機体反応の反応速度を向上させ、その動きは、非常に速い動きのガンダムにも匹敵している。

シロコシ選出後、モスク・ハン博士は、RX-78-2ガンダムにマグネット・コーティングを施した。このとき、まだ機体武装は「戦艦」と呼ばれていた。



モスク・ハン

連邦軍の技術士官として、マグネット・コーティングの開発者。一年戦争当時、電磁気学の新説を唱えていたが、理論の支援によって、その名は後世に伝わるようになった。



RX-78-2 ガンダム

パイロットであるアムロ・レイは、ニュータイプへの発展により機体性能を凌駕している。その反応速度に釣り合うように、マグネット・コーティングが搭載された。コーティング後の機体は、G-3仕様と呼ばれる。

機体構造

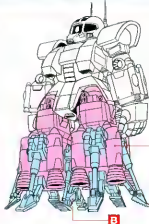
機動性向上を目的とした大胆な構造とその限界

前述の通り、MSN-01の特徴のひとつは関節の代わり
に装備された大推力の斜銃ロケット・エンジンである。MS-
16X開発計画の実験機として製作されたMS-06Zが、高
機動状態のデータ収集を行うに足る性能を有していなか
ったことから、本機には推力を増強するためにこうした改修
が施されたのである。それにより、機動性と推力はベース機
よりも向上し、テストを行うに十分な性能を確保していた。

しかしその一方で、機体容量の関係からベース機でも
指摘されていた稼働時間の不足という問題点の解決に
は至っておらず、限定的な試験を行う以上の稼働は不可
能であった。これは、本機のベースとなったMS-06Zが、
MS-06F サクザク型を基に製作されていたことに起因して
いる。本機やMS-06Zに要求された性能を満たすには、
MS-06Fという機体では力不足だったのである。



MSN-02の設計はMSN-01
の影響を受けたものであ
った。ただし、MSN-02の場
合は機体の大型化によって重
量にあたる部分にはラスタ
ーを用いることで対応してい
る。



A 無熱ロケット・エンジン・ユニット

一般的なMSの機内より下部の関節に相当する部分
に、大型の斜銃ロケット・エンジン・ユニットが搭載された。
ユニット基部に4本の斜銃ロケット・エンジンを
搭載している。

B ブレードギア

斜銃の推力・コンプレッション・ユニットに歩行機
力はなく、代わりに機体内部のブレードギア
を駆動する。また、AMBAC機構も有している。また、AMBAC
機構も有している。また、AMBAC



C ランドセル

基本構造はMS-06Zの
ランドセル（右図）と同じ
だが、上蓋はスクリーン
を兼ねる。また、AMBAC
機構も有している。また、AMBAC



武装

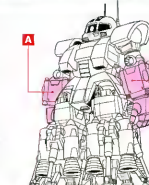
MS-16X開発計画に貫する有線誘導式攻撃端末の設計

MS-16Xは開発部にサイコミュ制御の有線誘導式メガ
粒子砲を装備する予定で開発が進められた。その実験機
であるMS-06Zにも同様の武装が採用された。MS-06Zを
ベースとするMSN-01もまた、前部腕部有線誘導式の攻
撃端末とする構造で、MS-06Zと同じキヤム-33E系列
のメガ粒子砲が採用されていたと考えられる。

しかし、メガ粒子砲を稼働させるのに必要な出力を具
なすシミュレーターや、そのコントロールに要するサイコミュ
・システムの搭載は、18m級の機体には困難だった。機体
各部の大型化は、その証左であったと言える。



コンベイトにおける
試験機である。前部腕
部有線誘導式メガ粒子
砲が使用されている。
機体の大型化によって
耐えられる出力性能
はなかったが、NT
形式の機体は有線
誘導式で対応してい
ると考えられる。



A 腕部有線誘導式連装メガ粒子砲

肘から先の前腕部を有線誘導式の攻撃端末として、
オールレンジ攻撃が可能としている。マニピュレータ
ーの基部がそれぞれ粒子砲になっている。



上と右は前腕部の構造を示した図で、
コンベイトの機体に投入された機体の
もの。肘の関節部や肩関節部は、
ユニットの基部にそれぞれ有線誘導
式のメガ粒子砲が搭載されている。

MORE INFO!

MSN-01誕生の土台となった MS-16X開発計画

MS-16X開発計画に属する実験機は、MSN-01・MS-
06Zのほか、MAN-03 ブラウ・プロと中型の宇宙戦闘機
が存在していた。その中でも、MS-16Xの仕様を可能な限
り再現することを目標とした機体はMS-06Zだったが、要求性
能を満たせずにMSN-01への改修へと繋がることになる。ま
た、MS-06Zのサイコミュ・システムと関節有線誘導式メガ
粒子砲は、MAN-03の試験データが反映されている。

さらにMS-16Xには、AMBAC技術として開発された歩行ユ
ニットの構造は第1試案と、歩行ユニットを備えた第2試案
の両方が存在していた。MSN-01は事実上の第2試案
として、MS-16Xはその問題点を踏まえ、MSN-02として
完全新設計が定められたのだ。



MS-16X開発計画を用
意に開発されたMSN-02
は、50%の完成度でア
バウト・クォーターに投入
され、最終4機とMS-16
Xを駆動する計画を遂げ
た。



■ MS-06Z サイコミュ・システム 試験用ザク

改修
MSN-02 第1試案

参考



■ MAN-03 ブラウ・プロ



■ MSN-01 サイコミュ・システム 高機動試験機

改修
MSN-02 第1試案

参考



俺のこの手が荒れてる？ おまえを倒せと叫び叫ぶ！

ウルベから、父の軌跡を条件にデビルガンダムの破壊を要請されたドモンは、ガンダムファイターとして地球へと降下する。そして、キョウジの手掛かりを掴みながらガンダムファイトに挑む中で、のちに新生シャッフル同盟を築くファイターたちとも争いを交え、友情を培っていった。しかし、デビルガンダムの手先になって闘い来るマスター・アジア、そしてついには彼らにキョウジを前にドモンは迷い、デビルガンダムを走らせてしまう。

自らの未来を思い知ったドモンは、ギアナ高地で修行に打ち込む。そこで、シュバルツ・ブルーダーの助力を得て「明鏡止水」の境地に達し、マスター・アジアとデビルガンダムを倒すことに成功する。そして、ガンダムファイト決勝大会の地、ネオオゾンコンへと飛ぶのだった。

だが、そこにはマスター・アジアの姿があった。決闘リーグを勝ち抜き、ランタオ島の最終バトルロイヤルに選んだドモンは、復活したデビルガンダムと対峙する。そして、仲間たちの助けによってデビルガンダムを打ち、マスター・アジアとのガンダムファイトに勝利したドモンは、第13回大会の優勝を手にしたのである。

しかし、事ここに至りウルベが黒幕の素顔を露わにし、レーンを生体ユニットとしてデビルガンダムを最終形態へと進化させる。それに立ち向かったドモンは、レーンへの愛を力として彼女を救い出す。そして、デビルガンダムを完全に消滅させて平和を勝ち取ったのだった。

足跡 マスター・アジアとの闘闘

デビルガンダムを造る戦いにおいて、ドモンはかつての師匠であるマスター・アジアと幾度となく争いを交えた。当初は、マスター・アジアが敵となった現実を受け入れられず、偽善と思い込むなど歪みも見せた。だが、マスター・アジアが自らの意思で敵に回ったと知り、断りに駆られて闘いを見せ、度々窮地に追い込まれる。しかし、明鏡止水の境地に達し、真のスーパーモードを発動させ、マスター・アジアを破るに至った。

決勝大会で再びマスター・アジアと対峙したドモンは、決闘リーグを全勝で勝ち抜きマスター・アジアに挑むと宣言するほどの闘志を見せた。その一方で、石破天驚作を伝説するマスター・アジアにかつての面影を感じ、ランタオ島におけるガンダムファイトで、彼の真意と意思を知る。そして、マスター・アジアに勝利するにつれて彼を認め、弟子として師の最期を看取ったのである。

能力 キング・オブ・ハードを継承した実力

遠東東方不敗を会得したドモンは、コロニー格闘技を制する技量を持つ武術家だった。さらに刀剣術にも心算があり、ガンダムファイトで活用していた。また、遠東東方不敗の一派として兵法も学んでいたが、マスター・アジアに真をカケられることもあった。



キング・オブ・ハードの優勝を告げながら、拳を握り握り締めて自らを奮り立たせている様子。人並み外れた力を見せた。



- ファイターズグループは、後にネオシャッフルを食害する目的の兵隊と化す。最終的にハタチは倒れたことになった。
- 自分の意思で戦うことが多く、伝説的なことが多かったが、心を動かした相手には潔く敗北を認めることもあった。
- 最初は強いメンチを食った。また、ギアナ高地ではシュバルツから買入れた機体で力を使い、そこが自分の本心と見做された。
- マスター・アジアと修行の約束もいたが、少年時代の手を離れて、いざいざマスター・アジアと闘う手を離れて、決闘の場を離れた。



ガンダムファイターとして地球に降りたドモンは、ガンダムファイトの戦いを戦っていき、勝利するやたら、写真の写真を前にしてキョウジの手掛かりを度しきっていた。



自分の未来を運命とするため修行に打ち込みギアナ高地で、シュバルツに挑んで共に戦ったことで明確な未来の道に迷った。やがてそれは運命がドモンは、決闘の戦い、勝利を掴み取った。



マスター・アジアは新選士に挑み、ギアナ高地、ランタオ島と幾度となく争いを交えた。そして、マスター・アジアとのガンダムファイトに勝利し、戦いの先に勝利の旗を上げるのだった。



マスター・アジアは新選士に挑み、ギアナ高地、ランタオ島と幾度となく争いを交えた。そして、マスター・アジアとのガンダムファイトに勝利し、戦いの先に勝利の旗を上げるのだった。



デビルガンダムの生体ユニットにされたレーンと戦った。彼らと力を合わせて戦ったが、その一撃はデビルガンダムを完全に破壊させ、ドモンはランタオ島に帰った。

MORE INFO

ドモンの父ライゾウ・カッシュはネオシャッフルで民間の科学者で、地球環境の再生を目的としてアルティメットガンダムを開発した。しかし、その軍事転用を目的としたドモンの個性によって要のミキミ・カッシュは命を失い、ライゾウも裏を隠されて永久冷凍槽に送られたのだった。



のちに冷凍庫から解き放たれたライゾウ博士は、ウルベが復讐したアルティメットガンダムを隠されて永久冷凍槽に送られたのだった。

ドモンの両親

ライゾウ・カッシュ ミキミ・カッシュ

ライゾウ(右)とミキミ(左)のふたりは、アルティメットガンダムを造ったウルベの軍事転用、裏を隠してキョウジを救ったと決意したのだった。





ドモン・カッシュ編

Case of Domon Kasshu

兄の行方を探すため、地球に降り立ったネオジャパンのガンダムファイター・ドモンは、厳しい戦いの中で真の武闘家へと成長していく――。



兄の行方を追った熱きガンダムファイターの成長



F.C.60 サバイバルイレブン時

ネオチャイナ

対サイ・サイシー戦 3話

俺のこの手が光って喰る
おまえを倒せと輝き叫ぶ!!



ドモンは、戦い、戦いと共に「シャイニングガンダム」でサイ・サイシー戦果のラウンドガンダムに決着を、6回に分けて決める。

モビルファイター (MF) を操るガンダムファイターたちは、敵MFにとどめを刺す際に「必殺技」を用いた。シャイニングガンダムを操るドモンは、MFの顔面を右手で掴み、そのまま破壊する必殺技「シャイニング・フィンガー」を繰り出す前口上として上記の言葉を叫んだ後、「必殺! シャイニング・フィンガーアッパー!」と続けるパターンが多かった。搭乗者の身体能力をフィードバックするモビルトレスシステムを採用して

いるMFだけに、ガンダムファイター自身の気合や意志も、MFの能力を発揮させる重要な要素となっていたのだ。特にシャイニングガンダムは、ガンダムファイターの怒りに反応して発動する「スーパーモード」を搭載しており、ドモンが感情を爆発させることでより戦闘能力を向上させることが可能だったのである。この前口上が初めて登場したのは、ネオチャイナで行われた対サイ・サイシー戦であった。



F.C.60 サバイバルイレブン時

ネオロシア

対アルゴ・ガルスギ戦 5話

そうか、俺も囚人なんだ……
この地球という名のリングの……



バードマンは、ネオロシアに拘束された元ガンダムファイターであった。戦いの最中、彼が囚人であることを隠していた。彼は囚人であることに気づき、ドモンの目に映る。

ドモンはガンダムファイトの傍ら、囚人ミキを死に至らしめ、父ライオンを冷凍刑に追いやった兄・キョウジの行方を探していた。そして潜入したネオロシアで、ドモンはネオロシアチームの関係者に身柄を拘束され、収容所に放り込まれてしまう。そこでネオロシアの囚人ガンダムファイター、アルゴ・ガルスギと激戦を繰り広げたドモン。ファイトが引き分けに終わった後、ドモンは収容所で邂逅を深めた囚人・バードマンから、

地球というリングに縛られたガンダムファイターの宿命を知らされ、上記の言葉を吐く。兄の行方を探すことに躍起になり、ネオジャパンの行く末やガンダムファイターの立場について考えてもみなかったドモンであったが、バードマンの一言によって、己もまた囚われの身であることが痛感する。それでもドモンは、消えた兄を探すためにこれから戦い続けることを決意したのであった。



F.C.60 決勝大会時

ネオホンコン

アーマーキルト/クロノス機 26話

俺のこの手が真っ赤に燃える！
勝利を掴めと轟き叫ぶ!!

アーマーキルトは、ドモンが選んだ「明鏡止水」の境地をフィードバックする「ハイパーモード」が搭載されている。その機体が活かされる。

サイババレイブレンで消滅したシャイニングガンダムから、新たに用意されたゴッドガンダムに乗り換え、ネオホンコンでの決勝大会に臨んだドモン。その決勝大会初戦、ネオギリシャ代表アーマーキルト・クロノスから乗るゼウスガンダムとの戦いで、ドモンはゴッドガンダムの必殺技「爆熱ゴッド・フィンガー」を初めて使用した。その前口上となつたのがこのセリフで、敵機を倒した後、「ヒート・エンドオオオ!!」の叫びと共にゼ

ウスガンダムを撃破し、勝利した。シャイニングガンダムの時より文字通り「熱い」言葉となっており、血の滲むようなギアナ高地での特訓で達した「明鏡止水」の境地がそのバックボーンとなっている。シャッフル同盟との絆、師匠でありながら現在は反目し合うマスター・アジアへの愛憎入り混じる想い……それらがドモンの意志へと変換され、振るぞい言葉となつていったのである。



F.C.60 決勝大会時

ネオホンコン

ダマスター・アジア機 45話

東方不败の拳が……
拳が泣いている……！

マスターは、ドモンに東流東方不败を伝授した師匠である。だが、彼は地球環境を破壊するガンダムファイトのシステムに絶望し、自己再生・自己増殖・自己進化の3大理論を持つデビルガンダムを用いた地球の浄化に乗り出していた。その本心を知らずいたドモンだが、ランタオ島で迎えた最終決戦にあってマスターの口から直接その内容を聞かされる。さらにマスターと拳を交えたとき、年齢を感じさせない力強

さに満ち溢れていたはずのマスターの拳が、まるで泣いているかのように感じられたのだ。シャッフル同盟を離脱してまで地球再生に懸けたマスターの強い決意に、心を揺さぶられるドモン。だが、ドモンはマスターの心を受け入れた上で「人類も自然の一部」という自論を展開し、マスターに立ち向かう。それが武闘家として、そして師匠を愛する弟子として出来る唯一の「反骨」であった。

CHARACTER'S MIND

デネゲア・クロケットやサイ・サイシーですら困地を欺んで見守った、ランタオ島の壮絶な戦いにより、ドモンはついに師匠の心をまたした。戦いの後、ふたりはこれまでの対立が喧嘩のようにその心の距離を縮めたのだ。

事で打ち解けたふたりだが、長年の戦いで疲れたマスターは息を引取った。



F.C.60 決勝大会終了後

ネオジャパンコロニー

対レイン・ミカムラ機 49話

俺は……おまえが……おまえが……
おまえが好きだ!! おまえが欲しい!!!!

生体ユニットを失ったデビルガンダムに対しては「お前を失った」「お前を失った」という言葉が響く。揺るぎない愛の力が世界を震らせた。

ドモンの優越で事を閉じるかに思われたガンダムファイト第13回大会だが、ネオジャパン陣営の実力者であり、前大会の代表でもあったウルベ・イシカワの反乱により、デビルガンダムの生体ユニットとしてレイン・ミカムラが取り込まれてしまう。ドモンは彼にとってなくてはならない存在になっていたレインの救出に向かう。新生シャッフル同盟の協力もあり、デビルガンダムの内部に到達したドモンだったが、レインへの

気持ちやうまく言葉に表せずにいた。だが、仲間たちの励ましでドモンに勇気を与え、ついにその心をレインにぶつけたのである。あまりにもストレートで、正直すぎるほどの言葉は、固く閉ざされていたレインの心を射抜き、デビルガンダムからの解放に繋がった。拳で語り、拳で未来を切り拓いてきたドモンは、不格用ではあるがその本心を素直に伝えられる立派な人間へと成長していたのである。



MORE INFO!

レインとの関係

サイババレイブレン開幕当初、ドモンとそのサポートクルーとして同行していたレインの設定は、あくまで共に闘う者としてのものだった。素直なドモンの対応がレインに寄り添う感じさせることもあったが、戦いの中で徐々に距離を深めていったのである。だが、ドモンがそんな気持ちを言葉に出すこともなかった。笑顔を返しては一度も、女性に對しては優手、レインをやきもちさせることなどはしなかった。

恋愛感情に燃えるドモンの鋭意は突然と主物ランタオ・レインは「熱意」という言葉を幾度も口にすき始末であった。



ドモンに熱い……愛するガンダムファイト・アレン・ヒューズとマスターの出現とはかけないドモンの態度がより関係を強化させた。



明鏡止水の境地

ドモンは地球上に降下した当初、師ミカムラが思いついた。そしてアライヴが冷凍庫に格納されたこの真骨をみる。受アライヴの機体と戦うことになった。敵機がババラになったことへの憤りから機体になる場面も多く、ファイトも不安定であった。だが、師のガンダムファイト、シャッフル・ブルーから精神面の助成を指摘されたドモンは、ギアナ高地で特訓に臨み、満腹で参人上まで落ち切った心を操縦する明鏡止水の境地に辿り着くのだ。



明鏡止水の境地に達したドモンは、ゴッドガンダムのハイパーモードで反目し合うマスターと対決。武闘家としての大活躍の場となった。

レイン・ミカムラ

Rain Mikamura

PROFILE

年齢 20歳
所属 ネオジャパン
国籍 ネオジャパニクル
出身 ネオジャパニコロニー
特技 機体修理・調整、ガンダムファイト機体



ドモンの成長を見つめた 女性クルーの1年

ガンダムファイトでは、実際にファイトを行うガンダムファイター以外に、機体やファイターをサポートするクルーの参加が認められていた。機体とその搭乗者の能力が勝利に最も重要であったが、不測の事態に対応できるクルーの存在は不可欠であった。

レイン・ミカムラは、ネオジャパニのクルーとしてガンダムファイト第13回大会に同行した人物である。父はガンダム開発局の主任を務めるミカムラ博士で、自身も医学や機械工学に精通していた。加えてガンダムファイターであるドモン・カッシュは幼馴染であり、サポートクルーとしてはこれ以上ない適任者と言えたのである。だが、10年振りに再会したドモンは、「デビルガンダム事件」によって行方不明となった兄キョウジを捜索することに躍起になっており、独断で行動するような場面も多かった。レインは彼の行動に頭を悩ませながらも、メカニック兼医師として彼と共に地球に降り立った。



父からの要請を断れず、ネオジャパニのクルーとして地球に降り立ったレイン。MFの要請からドモンの搭乗希望まで、サポート要員を一手に引き受けていた。

新しい新しい世界に慣れず、レインのドモンへの感情は変化していた。だが、徐々に彼女の心はなやみ、想いを打ち明けることができた。



CHARACTER

その人柄

医師やメカニックとしてドモンに助言を求め、兄キョウジの捜索に燃えるドモンを支えた。ドモンが言うことを聞かないこともしばしばであったが、レインはそれにものをいわずに自身に与えられた職務をやり遂げる芯の強さを持っている。



闘争行動の多いドモンに対し、「絶交しよう」と激怒することもあった。だが、常に彼の身を案じ、側にいらたくていて。

RELATIONS



注



ドモンに想いを寄せた
ネオジャパニの才女



MAIN MF



GF13-017NJ
シャイニングガンダム
ドモンがパイロットで運用したMF。ミカムラ博士が開発したパワーアップ機構「スーパーモック」を搭載している。レインはネオジャパニで一度試乗した。



JMF1336R
ライジングガンダム
シャイニングガンダムの兄弟機で、近々にはフルバリエーションの運用開始。ネオジャパニでレインが機体を持ち出し、ウォルターガンダムとの交戦に使用している。

関連ファイル

GF13-017NJ シャイニングガンダム GG-01-01
ドモン・カッシュ GG-02-01
ネオジャパニのムキ GG-02-03
ウルベ・インガワ GG-02-04

FILE PREVIEW

GG-02-01 ドモン・カッシュ

第13回ガンダムファイトに参加したネオジャパニのガンダムファイター。ガンダムファイトに参加しながら、地球に降下した兄キョウジの行方を探っている。

ドモンのバカ!! もう、絶交よ!!

ドモンは、兄キョウジの行方を探す目的で地球全土を走り歩き、各国のガンダムファイターと熱戦を繰り返す。当初はあくまで「仕事」としてサポートを行っていたレインであったが、ドモンの武闘家としての実力、そして情に厚い彼の人柄に惹かれていく。一方で、彼の思いが増していくほど、ドモンの素直ない態度が気になっていた。自分が必要とされていないのではないか——そんな疑念が彼女の頭をよぎったのである。だが、決勝大会開幕の前日、ギアナ高地にいたドモンと交信を断った際、彼の心の中に、しっかりと刻み込まれていたことを確信する。ドモンの気持ちを知ったレインは、彼をこれまで以上に支える決意を固める。

決勝大会では、ドモンに想いを寄せる彦蔵、アレクシー・ピアズリーが登場し、嫉妬をおぼえることもあったレイン。だが彼女は、デビルガンダム事件の真犯人がウルベ・イカワと父であることを知っている。父が罪を犯したことの責任、そしてドモンへの後ろめたいさから、レインは自ら彼の下を離れる。だが、ドモンはレインの愛を伝えるため、数々の試練を乗り越え宇宙へと旅しかけてきたのであった。レインのため「だけ」に取られたその行動は、固く閉ざされていたレインの心を開き、取り込まれていたデビルガンダムからの解放にも繋がった。ガンダムファイトの中で育まれたドモンとの愛は、その終了と共に新しい道を結んだのであった。

足跡 ドモンと共に乗り越えた数々の危機

サバイバルイレブンからドモンのサポートに入ったレインは、地球全土を走り歩く。レインは戦闘環境が目まぐるしく変わる中で機体を整備し、一方で無茶な事をドモンを置いていく体の体調管理など、苦労が絶えなかった。ネオランジックでは、ドモンの不在時に自らシャイニングガンダムに搭乗し、意図ファイターともなった。その後、訪れたギアナ高地では、特別に助けドモンを助けるがサボリし、明確な水の境地へと導いている。

決勝大会では、ドモンの新たな愛機ゴッドガンダムを調整しつつ、裏ではDG細胞の真相を追った。途中、アレクシーへの対応を通じてドモンとの関係が悪化し、チームを離脱したこともあったが、ドモンがマスター・アジアに勝利し、ついにガンダムファイトを制すると、レインは父と共にコロニーへと移動。ウルベに騙されたデビルガンダムに取り込まれてしまうが、ドモンにその命を救われた。

能力 ファイターとしての実力

医師やメカニックとしての腕は一流であったレインだが、ファイターとしてもそれなりの実力を兼ね備えていた。ネオシンジックでのマスターガンダム戦に敗北したものの、ネオオゾンで暴走状態となったアレクシーのウォルターガンダムと交戦した際には、ライジングガンダムで互角の戦いを繰り返したが、最後は「必殺必中ライジング・アロー」で敵機を行動不能としている。



母を捜索していたレインは、ライジングガンダムの性能を最大限に引き出すことに成功し、意図アレクシーに打ち勝った。



- ①シャイニングが入隊する前後へ入隊する際、どこからか差し込んできたスナーク。軍事病院へ入隊したレインは、シャイニング(キョウジ)を父と勘違いが原因としてとる場所に遭遇する。
- ②叛乱時に雇い入れられていた、レインのファイティングチーム。身体全体を埋め尽くしてコーティングした服を着て、上半身のピンク色が特徴的である。
- ③ネオランジックを脱走した際、シャイニングの機体でシャイニングに加入。ドモンとネオランジックにその身元がばれないようにする。シャイニングと同様の機体で乗組された。
- ④ピストルを携行しており、ピンチを捉えた際は素早く構える。銃以外には、バリア機能や炎属性、異常効果のライトももつコンバットを得意とし、不利な場面にも使っていた。



サバイバルイレブンでは、父キョウジを捜す中で世界を旅する。その行動を司るにはいた、シャイニングガンダムの整備をひきつけていたレインの存在があったと気づくことも過客ではない。



シャイニングガンダムに搭乗し、マスターガンダムと交戦したレイン。のちにドモンと交戦し、ふたりにシャイニング・アローを授け、マスターガンダムを撃退した人だ。



ウルベの策謀によって、デビルガンダムの生体ユニットにされてしまったレイン。度内に逃げた動物とエネルギーが、デビルガンダムをそっくりな複製した。



ギアナ高地とギアナ高地。ついにの影は隠れていくが、結成交信を通じてその心をつたえたのだ。



レインは、ドモンとの連携攻撃でデビルガンダムとウルベを打ち倒した。愛の力で世界を救ったレイン。愛の力で世界を救ったレイン。愛の力で世界を救ったレイン。

MORE INFO!

レインにとって、ガンダム開発主任を務める父ミカムラは敬愛する存在であった。だが、アルティメットガンダムが地球へと降下した「デビルガンダム事件」が、父とウルベの策謀であることになり、大きなショックを受けた。だが、彼が父とウルベの策謀を阻止する父への情を伝えることができず、彼と共に、軍艦での命を犠牲にしようとした。



キョウジを救済しようとしたレイン。その間に、彼の母を知る。それでもいい。父を見守ることができた。

父への愛憎



シャイニングガンダムに搭乗した「スーパーモード」を駆使する。その戦術は的確であったが、ライバルであるライジングの才に嫉妬心を抱いていた。



ラウ・ル・クルーゼ

Raww Le Klueze

PROFILE

年齢 不明
 所属 ザフト
 階級 クルーゼ隊隊長
 出身 コロニー・メンデル
 技能 MS操縦、遠隔操縦

失敗作の烙印を押され
世界を憎悪した仮面の男

仮面——それは幸福を阻害するために用いられる。ラウ・ル・クルーゼは、その仮面の下に世界の滅びを望むほどの憎悪を忍ばせていたのである。それはどのような意図は、何ゆえに与えられたのであるのか。

フラガ家を継ぐため、アル・ダ・フラガのクローンとして生み出された存在がクルーゼであった。しかし彼は常人より老化が早い「失敗作」だったため不要な存在とされた。アルの代理となるべく育てられたため「自分」としての過去を持たず、短い寿命のために未来もない。そして彼の現在はまだ進撃に費やされる。人の欲望により勝手に生み出され捨てられた、そんな自身を生み出した世界にクルーゼが憎悪を向けたのは必然であろう。

クルーゼはナチュラル機絶を断る/トリック・ザラに協力、その一方でやはりコーディネーター機絶を掲げるムルタ・アズラエルにも通じ、世界を破壊させるべく動き回す。



仮面に隠された真実もまた、彼を人間。それを知覚させようとするクルーゼは、自らの出自を呪い、自らの真の感情をばらけの『道徳性』や『正義』や『愛』に似て憎悪を向ける。

CHARACTER

その人物

狂おしいほどの憎悪を仮面の下に隠したクルーゼは理論的に振る舞い、部下から信頼を寄せられる有能な人物と評される。その証明は功を漸し、復讐した狂気に気付かれることなく、世界を混乱に導くための工作を密かに続けていったのだ。



狂気に任せたまはれは見えぬクルーゼだが、度々面談などは演説を忌避させることもあった。それこそが内に秘めた未来の感情であろう。

RELATIONS



自らの出自を呪い
 人類の業を裁こうとした復讐者

MAIN MS

ZGMF-915
シンク

中流の戦闘機に属し、機動力を重視したメカの上で、ビーム兵器を持つセイラの機体で開発されたことで、本機は自律性を失わずに少人数で運用が可能となった。

ZGMF-X13A
プロヴィデンスガンダム

ZGMF-X13Aのうちの1機で、ドゥラッグ・ジーンズと名づけられたクルーゼ機体の機体。第二次オアシス・ドゥラッグ・ジーンズに投入されたことから戦況を掌握する。

関連ファイル

ZGMF-X13A プロヴィデンスガンダム	SEED-01-13
ZGMF-6000 ザイト	SEED-01-15
キラ・ヤマト	SEED-02-01
ムウ・ラウ・フラガ	SEED-02-05
アッシュ・ザ	SEED-02-11

FILE PROFILE



元々高層に所属するコーディネーター。唯一の「成功者」であるキラはラウは嫉妬と憎悪を抱いており、その計画に絡みながら、最終戦で彼に打ち勝つことになった。

ザフトの兵士たち

Soldiers of ZAFT

PROFILE -Miguel Ayman-

年齢 18歳
所属 ザフト
階級 クルー・セブ隊員
出身 プラント
技能 MS操縦



プラントのために戦った
コーディネイターたち

ミゲル・アイマン

ヘリオポリスの「G」強奪作戦に参加していたミゲル・アイマンは、ザフト・クルー・セブ隊のエースパイロットであった。最上位パイロットの称号である「赤鯨」は後輩であったアスラン・ザラやイザーク・ジュールとは違っていたが、MSの機動性を最大限に活かすテクニックから「黄昏の魔弾」との異名すら持っていたのである。だが、ジーンに誘来して行なった「G」強奪作戦では、民間人のキラ・ヤマトが搭乗した「G」のうちの一機、ストライクガンダムとの戦いに手を取り、撤退を余儀なくされる。さらに、作戦に参加したラスティ・マッケンジーら同僚が戦死したことで、ミゲルはストライクに対して怒りを覚える。その想いを胸に、ミゲルはストライクとの2度目の戦いに臨む。だが、ミゲルのテクニックを持っても、スーパーコーディネーターであるキラによって運用されるストライクとの性能差は埋め難く、格闘戦で命を落とすしてしまう。結果的に彼は、ストライクに敗れた初のザフト兵となったのである。



ヘリオポリス内部に侵入したミゲル。彼はジーンに誘来し、アスランやイザークなど、ガンダム奪取作戦をサブリーダーとして参加していた。



ナチュラルに負けるわけにはいかない。強烈な攻撃を食ったストライクに返答したミゲル。スーパーコーディネイターであるキラであったことは目撃者であった。

CHARACTER

その人物

ミゲルは、戦いに勝つための命懸けを捨て、ザフトに入隊したと言われる。一方で、「自由のバレンタイン」事件の影響から、ナチュラルに対しては憎悪に近い感情を抱いており、その存在を蔑視していた。



搭乗とリーダーシップのあきミゲルは同僚からの信頼も厚かった。彼がストライクに敗れたことは、クルー・セブ隊にとって大きな痛手であった。

RELATIONS



▲ミゲル・アイマン



▲ラスティ・マッケンジー



▲フレデリック・アデス



▲レイ・ユウキ



▲マルコ・モラシム

関連ファイル

ZOAF 1017シシ	SEED 01 14
ザフトの戦艦	SEED 01 26
アスラン・ザラ	SEED 02 11
キラ・アム・クルーセ	SEED 02 15
イザーク・ジュール	SEED 02 18



ジーンと民間企業連合が、ザフトの指導を受ける。C.E.71の戦いでは、ナチュラルへの復讐からその魔剣を拝借し、地球連合軍との戦闘は拡大していった。

ラスティ・マッケンジー

ラスティ・マッケンジーは、アスランやイザークとは士官学校時代からの同期であり、友人のひとりであった。「赤服」としてクルーゼ隊に配備された彼は、「G」奪取作戦の実行部隊としてヘリオポリスに潜入。だが、軍事工場内に置かれたストライクに辿り着く直前、地球連合軍兵士から銃撃を受け、命を落とした。



アスランやイザークと共に、ザフトの期待されている若手兵士であった。だが、ガンダムを奪取する前に陣営を誤り、自らのパイロットとしての能力を発揮することはなかった。

フレデリック・アデス

クルーゼ隊の旗艦ヴェサリスの艦長として、旗をまっていたのがフレデリック・アデスである。どのような状況でも実直かつ的確な指揮を執り、クルーゼ隊指揮官ラウ・ル・クルーゼからも信頼を得ていた。アスラン、イザーク、ディッカ・エルスマンなど、隊からは数々と離脱者が出たが、アデスは最後までラウに付き従った。



ラウが世界を揺るがす、兵士のひとり、ストライクを奪った地球連合軍艦「アーケエンジェル」の艦長を務め、戦い続ける。

マルコ・モラシム

ザフト・バントフルド隊と離れ、アーケエンジェルと対峙したモラシム隊。その隊長を務めていたのが、「紅海の賊」としてマルコ・モラシムである。カーペンタリア基地に所属していた彼は、水防隊員MS/ノノヤ、ディンを用いてアーケエンジェルに迫った。だが、インド洋での交戦時に自機を撃破され、部隊も消滅した。



人々を見守るゆえの心と責任が重なり、その上、確かな戦術的な女性に魅力を感じていた。バント上層部に気に入られていた彼の鼻を明かそうと、アーケエンジェルの乗組員に接近する。

レイ・ユウキ

ザフトの特務部隊「FAITH（フェイス）」の隊長で、プラント最高評議会議員ノリクリ・サラの側近。ナチュラルの使徒を目指すノリクリを危機に陥れ、大量破壊兵器・ジェネシスで地球を破壊しようとしたところを制止する。その行動に逆上したノリクリに撃たれるも、薄れゆく意識の中で反撃し、彼の暴走を止めた。



ラウの息子であるアスランとは見知った顔であり、アスランと対峙した際には、地球連合軍乗取の機会を捉えた「オペレーション・スピットブレイク」の失敗と、ラウによるフリーダムと地球連合軍の戦いをいち早く察知した。



① アスラン、イザーク、ディッカ、ニコルと共に士官学校の卒業式に出席するラスティ。赤い服の姿が特徴である。
② ザフトの指揮官としてアデスは、艦と艦を基盤とした軍艦を統率している。また、ヴェサリス艦長の顔として、顔に映っていた。
③ ラウ・バントフルドと対峙。海上戦艦が運用していたモスランの戦艦を艦隊の一の戦艦として運用。戦艦であるため、半端である。
④ ノリクリの側近であるユウキは、旗艦クルスの軍艦を補佐。アスランと対峙するものとは異なり、ジャスト部分の太が細くなっている。



アデスはクルーゼの意をなす形で、ヘリオポリスから脱出したアーケエンジェルを艦長。彼らが宇宙に帰還すると、再び活動を開始した。



モラシムはバントフルド隊の艦長を自任した。空からはディンで、水中からはガンダムやアーケエンジェルを運用した。自らもバントフルドに立派なが、ストライクに敗北する。



レイ・ユウキは特務部隊「FAITH」の隊長として描かれている。彼らはクルーゼの意をなす形で、ヘリオポリスから脱出したアーケエンジェルを艦長。彼らが宇宙に帰還すると、再び活動を開始した。



ノリクリの側近であったユウキは「オペレーション・スピットブレイク」の失敗はザフトにとって大きな軍事であると感じていた。彼らにアスランと対峙するオタクの艦長は自機を撃破した。

MORE INFO!

アスランやディッカなど、エースパイロットたちと離れ、クルーゼ隊に補充された女性兵士。赤服が示す通り兵士としての資力は折り紙付きで、ラウへの改修であるVF-X2000 シグナ・ディパーアームズを運用した。クルーゼがイザークに補佐を任せると、そのマシンをモラシム隊所屬として、第2次マカドゥーラ攻防戦に参加。戦いの終結まで戦い続けている。



イザークとディッカとあるガンダム隊の若手兵士として、第2次マカドゥーラ攻防戦に参加。出陣前にイザークから渡された「お守り」の想いが、無事生きていた。

シボ・ハーネンブース



MS 系開発に携わる技術者であった。フリーダムアームズの開発に貢献し、オタクのイザークを補佐することによってザフトに入隊。多くの兵士が命を落とす大激戦を乗り切った。戦後、ザフトを離れたと知られるが、OE 75時には復讐した。

未来世紀
ガイド

ガンダムファイト

Political System in F.C.

未来世紀の政治システム

ガンダムを用いた
4年に1度の代理戦争

ガンダムファイトとは、各コロニー国家が開発した機動兵器モビルファイター（MF）「ガンダム」によって行われる代理戦争である。地球全域を戦場とするガンダムファイトは、4年に1度、1年間に亘って開催され、優勝国は向こう4年間、コロニー連合の主導権を獲得する。ガンダムファイトの創設こそが、期間限定ながら世界の統治者となるのだ。

ただし戦争とはいっても、ガンダムファイトは軍隊を大規模動員するような正規戦ではない。ガンダムファイトにおいて各国が許される直接戦力は、ガンダム1機とそのパイロット「ガンダムファイター」ひとりであり、戦闘に関するルールはガンダムファイト国際条約7ヶ条や各種レギュレーションによって決まっている。特に戦闘に関するルールは厳格で、コクピットへの攻撃禁止、一対一の戦闘形式、両者の同意による戦闘開始、ガンダムへの大出力ビーム砲および強力なエネルギーシールドの規制といった規定が存在

する（ガンダムファイト国際委員会の監視にもかかわらず、違反行為が度々行われ問題視されている）。結果、ガンダムファイトはガンダムによる異種格闘技大会としての側面を強めた。ガンダムファイトが「大会」、優勝国が「優勝国」と呼ばれるのには、こうした背景が充ちていて。

スポーツ的な代理戦争という発想に立つガンダムファイトは、未来世紀（F.C.）初期の世界的危機の中で生まれた。地球環境の悪化を受けた新天地スペースコロニーへの移住をもって、新時代F.C.へと改組した人間だったが、問題は山積していた。コロニーに移住した中流階級以上と地球上に残った低所得層および自然派の分裂、支配層を失った地上の混乱は、コロニー連合による地球制圧戦争「第一次カオス戦争」へと続いていたのだ。第一次カオス戦争は事実上、コロニー連合の勝利で停戦し、地上は支配下に置かれたが、直後にコロニー連合諸国が対立、独自行動を開始してしまう。

こうして第二次カオス戦争の危機が迫る中、ガンダムファイトが制定された。コロニー連合軍事顧問だったF.C.デューサー教授の論文「機動兵器による代理戦争とその効果」は当初、非現実的なもの

として無視されていた。しかし発表から数週間後、論文は連合議会の最優先課題として上程され、即日可決された。F.C.06年のことである（その年には、シャッフル同型の工作活動があったとされている）。

そしてF.C.08年、ガンダムファイト第1回大会が開催された。地球を戦場とするガンダムファイトに問題もあるが、戦争抑止策としての効果は大きく、度々危機を迎えながらもF.C.60には第13回大会が開催。次回大会はF.C.64に予定されている。

(シェン・プー F.C.61)

関連ファイル

GF13-017AN シャイニングガンダム	00-01-01
ドモン・カッシュ	00-02-01
シャッフル同型	00-02-12
ガンダムファイトの制定	00-03-01
MF（モビルファイター）	00-03-12
第13回ガンダムファイト	00-03-21

F.C.60年、開始されたガンダムファイト。開始されたガンダムファイト。開始されたガンダムファイト。



近接格闘戦主体となった ガンダムファイ

ガンダムファイの戦いは、ファイターの呼びかけ(ガンダムファイ)に対して、もう一方が「レディゴー」と応えることで始まる。先の呼びかけが戦闘(ファイティング)シグナルの発信、応答側が受信受信を示し、この通信によりファイターが成立する(ファイ宣言)。こうした開始方法と一対一の戦闘形式は、互いに目視した状態でファイ開始を強要するため、ガンダムファイは自ずと近接格闘戦が主体となる。バルカン系術の達人ヘローザ・ディオニソスによる第1回大会優勝以降、各国はこの認識を強く、ガンダムには格闘戦タイプが、ガンダムファイには格闘家や接近戦の達人が選ばれることが多くなった。大会3連覇を達成したフライングガンダムは射撃戦に特化していたが、第12回大会では格闘員候補のターゲッドガンダムが優勝し、再び格闘戦優位の認識が広まった。



「ガンダムファイ、レディゴー」の掛け声と同時に、両者が戦い合う場合がほとんどである。射撃主体のシンブルガンダムも、ファイ開始直後は近接戦を余儀なくされる。

MORE INFO!

第13回大会決勝の特別ルール

ネオコンゴ主催の第13回大会決勝では、前戦大会覇者のウォン・ユンファが、「決勝大会3ヶ条」となるルールを導入した。これはガンダムファイ国際条約7ヶ条に優先するものである。第1条と第2条は、支配下のDG施設破壊を有利にする点に、戦闘の激化による有力ファイター排除が目的だったようだ。こうしたルール変更が実施できるのは、前大会優勝者の権限だった。

決勝大会3ヶ条

- 第1条 決勝大会においては、機体の交換および修理施設が何処でも認められる。
- 第2条 勝利のためにはコックピットを奪うもよし。手放しは問わす。
- 第3条 このルールの下に最終バトルロイヤルを勝ち抜いた者達の一部に、「ガンダム・ザ・ガンダム」の栄誉が与えられる。



ウォン・ユンファ

ネオコンゴの豪族。宇宙船を操る天才だが地上に人付き合いが苦手な面がある。この大会を行った。最後は自身もDG施設に侵入した。

ガンダムファイの進行

地球全域を「リング」として、1年間に亘って行われるガンダムファイは、予選大会と決勝大会に分けられる。その大半は予選期間に費やされ、地球全域でガンダム同士のファイが展開される。次で行われる決勝大会は、前大会優勝国の地上機とを舞台に、リーグ戦と最終バトルロイヤルが実施されるのが通例である。参加資格を持つ国家は「ガンダム開発5ヶ国」と考えていい。

ガンダムの地球降下

開発宣言の1ヶ月前から、ガンダムの地球降下が認められる。所属するコロニー国家の地上機に降下するガンダムが多いが、ルール上、降下ポイントの制約はないため、ファイを促す相手国に直降し立つことも可能である。なお、開発宣言の時点で降下を完了していない国は失格となる。

サイババレーレパン

開発宣言後、サイババレーレパンと呼ばれる1ヶ月間の予選大会が始まる。通常、参加者は射撃戦手とを求めて地上へ移動、または持ち帰るが、ファイを避けるだけの戦力保存も認められる。開発宣言と大会の開始は、最初のファイティングシグナル発信、つまり最初のファイ成立をもって決定されるようである。

決勝大会① リーグ戦

開発宣言から12ヶ月間に入ると、サイババレーレパンを生き延びたガンダムが前大会優勝国の地上機と対戦し、決勝大会が行われる(予選を逃がったガンダムも、射撃期間内に制しないとき)。最初にリーグ戦が行われ、その後上位10機と前大会優勝国のガンダム1機が、最終バトルロイヤルに進出する。

決勝大会② 最終バトルロイヤル

11機のガンダムが1箇所に向かい、最終バトルロイヤルが行われる。戦いは最後の1機になるまで続けられ、勝ち残ったガンダムの所属国がその大会の優勝国となる。優勝国は以後4年間、コロニー連合の主席権を維持する。その優勝国は極めて大膽で、次回大会で優勝を逃すと失格とされた場合の懲罰は最悪とされている。

ガンダムファイのルール

基本ルールとして知られるガンダムファイ国際条約7ヶ条は、ファイを役立たせず、国家とファイターの品位を保つことで、ガンダムファイの正当性を保つ狙いがあるとされる。ただし7ヶ条は予選大会だけに適用されるもので、決勝大会は主催国が独自ルールを制定できる。他にも、大出力ビーム兵器やエネルギーフィールドの規制などを定めた、ガンダムに関するレギュレーションも存在する。



格闘の厳しさによる失格とコックピットを奪取したファイターは、ファイのスポーツ性を重んじる事情がある。

戦闘中、地球はコーナーストーム(宇宙船を落とすためのロープ)で取り囲まれる。地球全域のリング化と体験するものとされる。

ガンダムファイ国際条約7ヶ条

- 第1条 過剰な破壊された者は失格となる。
- 第2条 相手のコックピットを攻撃してはならない。
- 第3条 破壊されたのが施設以外であれば、何であれも修理し、決勝リーグを戦うことができる。
- 第4条 ガンダムファイは己の「ガンダム」とし、互いに敵対してはならない。
- 第5条 一対一の戦いが原則である。
- 第6条 国家の代表であるガンダムファイターは、その破壊と重責を負ってはならない。
- 第7条 地球がリング化し、試合中の過失によるガンダムファイターの脱落は認められる。

「ガンダムファイ」によって地球上の破壊物を破壊しても罪に問われることはない。

第8条 地球はコーナーストーム(宇宙船を落とすためのロープ)で取り囲まれる。地球全域のリング化と体験するものとされる。

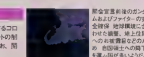
ガンダムファイ国際条約7ヶ条

F.C.08からF.C.60まで13回が開催されたガンダムファイの優勝国、優勝ガンダム、優勝ファイターの一覧が以下の通りである。射撃戦の達人ジェントル・チャップマンが印象的だが、他の多岐にわたる使い手が優勝しており、近接格闘戦が有利となる傾向を示している。なお、第11回から第12回の間は8年間空いているのは、軍縮による国家間の相互不信により大会が延期されたためだった。

大会	開催年	優勝国	優勝ガンダム (MP)	優勝ファイター
第1回	F.C.08	ネオオジリア	バルカンガンダム	ヘローザ・ディオニソス
第2回	F.C.12	ネオオジリア	ガンダムリンドバ	フレイム・ディン
第3回	F.C.16	ネオオジリア	フライングガンダム	ターナル・メルバ
第4回	F.C.20	ネオオジリア	フライングガンダム	サイ・ジョーロ
第5回	F.C.24	ネオオジリア	バルカンガンダム	フレッド・ロバート
第6回	F.C.28	ネオオジリア	ガンダム・ネード	ビッド・アムズ
第7回	F.C.32	ネオオジリア	カイザーガンダム	ウォル・ハバニリス
第8回	F.C.36	ネオオジリア	コサキガンダム	スキャリー・ジョー
第9回	F.C.40	ネオオジリア	フライングガンダム	ジェントル・チャップマン
第10回	F.C.44	ネオオジリア	フライングガンダム	ジェントル・チャップマン
第11回	F.C.48	ネオオジリア	フライングガンダム	ジェントル・チャップマン
第12回	F.C.56	ネオオジリア	フライングガンダム	マスター・ジョー
第13回	F.C.60	ネオオジリア	フライングガンダム	ドモン・カッシュ



1ヶ月間に亘る予選期間中はファイター同士が互いに地球とつながる場所でも、戦闘が許可される。決勝大会では前大会優勝国の特設リングでファイが行われる。



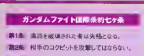
開発宣言直後のガンダムファイターは、サイババレーレパンを生き延びることになる。ガンダムファイ国際条約7ヶ条を重んじて、破壊された施設は修理し、決勝リーグを戦うことができる。



シールドを持つ射撃戦のガンダムは、戦術的に不利な状況でも、ファイを拒否してはならない。



最終決戦はルール集のバトルロイヤルで、最後の1機になるまでファイが続けられる。特定の領域を破壊し、互にリングを奪う例が多いという。



過剰な破壊された者は失格となる。相手のコックピットを攻撃してはならない。

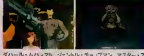
破壊されたのが施設以外であれば、何であれも修理し、決勝リーグを戦うことができる。

ガンダムファイは己の「ガンダム」とし、互いに敵対してはならない。

一対一の戦いが原則である。国家の代表であるガンダムファイターは、その破壊と重責を負ってはならない。

地球がリング化し、試合中の過失によるガンダムファイターの脱落は認められる。

「ガンダムファイ」によって地球上の破壊物を破壊しても罪に問われることはない。



地球はコーナーストーム(宇宙船を落とすためのロープ)で取り囲まれる。地球全域のリング化と体験するものとされる。

ガンダムファイ国際条約7ヶ条

大会	開催年	優勝国	優勝ガンダム (MP)	優勝ファイター
第1回	F.C.08	ネオオジリア	バルカンガンダム	ヘローザ・ディオニソス
第2回	F.C.12	ネオオジリア	ガンダムリンドバ	フレイム・ディン
第3回	F.C.16	ネオオジリア	フライングガンダム	ターナル・メルバ
第4回	F.C.20	ネオオジリア	フライングガンダム	サイ・ジョーロ
第5回	F.C.24	ネオオジリア	バルカンガンダム	フレッド・ロバート
第6回	F.C.28	ネオオジリア	ガンダム・ネード	ビッド・アムズ
第7回	F.C.32	ネオオジリア	カイザーガンダム	ウォル・ハバニリス
第8回	F.C.36	ネオオジリア	コサキガンダム	スキャリー・ジョー
第9回	F.C.40	ネオオジリア	フライングガンダム	ジェントル・チャップマン
第10回	F.C.44	ネオオジリア	フライングガンダム	ジェントル・チャップマン
第11回	F.C.48	ネオオジリア	フライングガンダム	ジェントル・チャップマン
第12回	F.C.56	ネオオジリア	フライングガンダム	マスター・ジョー
第13回	F.C.60	ネオオジリア	フライングガンダム	ドモン・カッシュ

MS
通用理論

C.E.のMS

History of MS Development in C.E.
コスミック・イラのMS開発史プラントが生み出した
最強の大型兵器

30m前後の全高を持つ大型機動兵器が、モビルスーツ（以下MS）である。その威力は圧倒的で、MSと従来の歩人型機動兵器モビルアーマー（以下MA）との戦力比は、5対1以上に達した。計算上、MAが5機以上ないとMS1機を倒せないことになる。

実際、各国はMSの能力を極めて高く評価しており、C.E.72.03.10に調印されたユニウス条約では各国のMS（やMS通用プラットフォームである艦艇など）の保有数に制限が課せられるまでに至った。過去、戦時兵器や大量破壊兵器、過剰な被害を与える兵器や無差別兵器などが軍縮条約の対象になったことはあるが、旧来の戦闘機や装甲戦闘車輛と同様の位置付けにある兵器＝MSの保有数が国際条約で制限されたのは異例のことだった。逆説的に言えば、MSは大量破壊兵器に迫る危険性を秘めた兵器と判断されたのだ。

MSの高性能にいくつもの理由がある。強力な武

装による攻撃力／高度な耐弾性／優れた機動力の三要素を兼ね備える点はMAと同じだが、MS特有の人形シルエット、特に四肢の存在はさらなる高性能化に貢献した。

まず人間の腕に近いマニピュレーターは、突撃銃や格闘兵器、ビーム砲や巨大刀剣に代表される多種多様な兵装を使い分けることができた。脚部は重力下における歩行能力を担保しており、これに強力な推進力が加わることで、MSは大気圏内外での両用性を持つに至った。そして、腕部や脚部の慣性モーメントを利用した非ロケットモーター式の姿勢制御機能は、MA以上の複雑な空間機動を可能とした。

こうした特性を持つMSは、電波障害により近接格闘戦を強いられるニューロンジャマーの影響下において、特に優れた性能を発揮した。ただし、ニューロンジャマーの開発はMSの配備より遅く、ニューロンジャマーを想定したCMSが開発されたわけではない。

新兵器MSの開発は、コーディネイターが大半を占めるスペースコロニー群「プラント」で行われた。

大西洋連邦に代表される理事国からの圧力や反コーディネイター結社「ブルーコスモス」の脅威に駆使ながらも、自治権と自衛手段を持たないプラ

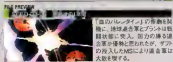
ントでは不満が高まっていた。その中で政治結社「真道同盟（プラント軍ザフトの前身）」は、木星探査船「ワイオルコフスキー」の外骨格・補助動力式宇宙作業服「モビルスーツ」に着目し、その軍事転用を提議とした研究を開始。C.E.63のことであった。

そしてC.E.65にMSの試作第1号機が、C.E.67に実用第1号機が完成し、同年中にマイクス市の一部を改造した工場でMSの増産が開始された。一連の流れの中で戦力化されたのがザフトの主力MS、ZGMF-1017 ジンであり、C.E.70.02.11に始まった地球連合とプラントの戦争で猛威を振るうこととなった。

（カイト・アババ C.E.75）

関連ファイル

GAT-X105 コスライクガンダム	SEED-01.01
ZGMF-1017 ジン	SEED-01.14
新兵器の1年史	SEED 03.04
プラントとザフト	SEED-03.35



「真道同盟」の探査船に突如、地球連合軍とプラントは戦況に突入。両方の陣営は連合軍の機体と戦ったが、ザフトの投入したMSにより連合軍は大敗を喫す。



MS運用講座 AMBACシステム

MS Technology in U.C.
宇宙世紀のMSの技術

推進剤不要の 姿勢制御システム

MSやMAなどの宇宙用姿勢制御機構として採用されているのが、AMBACシステム(Active Mass Balance Auto Control System=能動的質量移動による自動姿勢制御システム)である。腕部や脚部に代表される大質量ユニットを動作させることで、機体の姿勢を安定化あるいは変更するシステムと言える。

AMBACシステムの具体的な仕組みは以下のようである。例えば、MSの脚部を振り上げるように動作させる。すると脚部は慣性の法則に従って上方方向に飛んでいこうとするが、脚部はMSの胴体と繋がっているため、MS全体が脚部に引っ張られる形で倒立する。つまり、大「質量」物である脚部を「能動的」に「移動」させ、MSの「姿勢」を「制御」したわけだ。なお、名称の「Auto(自動)」が示すように、システムはコンピュータによって自動制御される。

以上の説明は、AMBACシステムが推進剤不要の姿勢制御機構であることも証明している。もっとも

戦闘機動時やモーター打ち消し時、オプションや兵装の推行により四肢ユニットが使えない場合には、アロジモーター(姿勢制御用のバーニア・ロケット)が併用されるため、まったく不要なわけではない。だが、AMBACシステムは、姿勢制御をロケットにのみ依存するシステムより遥かに推進剤消費量が少ない。U.C.0070年代初期の一般的宇宙戦闘機が180度旋回を2.5秒で行った場合、約300kgで姿勢制御用バーニア・ロケットの推進剤が尽きてしまったが、AMBACシステム搭載機は高速旋回さえ要求されなければ、何重でも姿勢制御が可能であった。

こうして空間戦闘MS・MAの重要な機構となったAMBACシステムは、MSの研究開発の時点ですでに存在した。ジオン公国軍のミノフスキー散布環境下対応兵器の開発において、Z.EONIC社が提示したZL-XA3(MS-01)にAMBACシステムが搭載されていたのである。AMBACシステムを用いたZL-XA3の180度姿勢変更は3秒で完了したと言われ、実用的な旋回能力が窺える。

ただしAMBACシステムを成立させるには、大質量物を高速で動作させる必要がある。質量が小さかったり、速度が遅かったりしては充分な姿勢制御

能力が得られないという問題もあった。

もっとも、この問題はすぐに解決された。大質量化が前提となるMSの手足、小型高出力のミノフスキー・イオネスコ型核反応炉、大パワー高レスポンスの流体内部バルブシステムやフィールド・モーターの搭載で、AMBACシステムは十分に機能したのだ。MSが発展する中で顧みられなくなった関連技術も存在するが、AMBACシステムの重要性が変わることはなく、U.C.0150年代に至っても継承され続けている。

(オットー・カルテンバフ、U.C.0154)

関連ファイル

MS-06F 220型	F6-01-08
MS-06F220型 1号機フルバーニア	F6-01-02
MS-06F220型 2号機フルバーニア	F6-01-05
MS-07 220型 2号機	F6-01-12
MS-07 220型 3号機	F6-01-14
MS-07 220型 4号機	F6-01-15

MS-07 220型 5号機

F6-01-16

F6-01-17

F6-01-18

F6-01-19

F6-01-20

F6-01-21

F6-01-22

F6-01-23

F6-01-24

F6-01-25

F6-01-26

F6-01-27

F6-01-28

F6-01-29

F6-01-30

F6-01-31

F6-01-32

F6-01-33

F6-01-34

F6-01-35

F6-01-36

F6-01-37

F6-01-38

F6-01-39

F6-01-40

F6-01-41

F6-01-42

F6-01-43

F6-01-44

F6-01-45

F6-01-46

F6-01-47

F6-01-48

F6-01-49

F6-01-50

F6-01-51

F6-01-52

F6-01-53

F6-01-54

F6-01-55

F6-01-56

F6-01-57

F6-01-58

F6-01-59

F6-01-60

F6-01-61

F6-01-62

F6-01-63

F6-01-64

F6-01-65

F6-01-66

F6-01-67

F6-01-68

F6-01-69

F6-01-70

F6-01-71

F6-01-72

F6-01-73

F6-01-74

F6-01-75

F6-01-76

F6-01-77

F6-01-78

F6-01-79

F6-01-80

F6-01-81

F6-01-82

F6-01-83

F6-01-84

F6-01-85

F6-01-86

F6-01-87

F6-01-88

F6-01-89

F6-01-90

F6-01-91

F6-01-92

F6-01-93

F6-01-94

F6-01-95

F6-01-96

F6-01-97

F6-01-98

F6-01-99

F6-01-100

F6-01-101

F6-01-102

F6-01-103

F6-01-104

F6-01-105

F6-01-106

F6-01-107

F6-01-108

F6-01-109

F6-01-110

F6-01-111

F6-01-112

F6-01-113

F6-01-114

F6-01-115

F6-01-116

F6-01-117

F6-01-118

F6-01-119

F6-01-120

F6-01-121

F6-01-122

F6-01-123

F6-01-124

F6-01-125

F6-01-126

F6-01-127

F6-01-128

F6-01-129

F6-01-130

F6-01-131

F6-01-132

F6-01-133

F6-01-134

F6-01-135

F6-01-136

F6-01-137

F6-01-138

F6-01-139

F6-01-140

F6-01-141

F6-01-142

F6-01-143

F6-01-144

F6-01-145

F6-01-146

F6-01-147

F6-01-148

F6-01-149

F6-01-150

F6-01-151

F6-01-152

F6-01-153

F6-01-154

F6-01-155

F6-01-156

F6-01-157

F6-01-158

F6-01-159

F6-01-160

F6-01-161

F6-01-162

F6-01-163

F6-01-164

F6-01-165

F6-01-166

F6-01-167

F6-01-168

F6-01-169

F6-01-170

F6-01-171

F6-01-172

F6-01-173

F6-01-174

F6-01-175

F6-01-176

F6-01-177

F6-01-178

F6-01-179

F6-01-180

F6-01-181

F6-01-182

F6-01-183

F6-01-184

F6-01-185

F6-01-186

F6-01-187

F6-01-188

F6-01-189

F6-01-190

F6-01-191

F6-01-192

F6-01-193

F6-01-194

F6-01-195

F6-01-196

F6-01-197

F6-01-198

F6-01-199

F6-01-200

F6-01-201

F6-01-202

F6-01-203

F6-01-204

F6-01-205

F6-01-206

F6-01-207

F6-01-208

F6-01-209

F6-01-210

F6-01-211

F6-01-212

F6-01-213

F6-01-214

F6-01-215

F6-01-216

F6-01-217

F6-01-218

F6-01-219

F6-01-220

F6-01-221

F6-01-222

F6-01-223

F6-01-224

F6-01-225

F6-01-226

F6-01-227

F6-01-228

F6-01-229

F6-01-230

F6-01-231

F6-01-232

F6-01-233

F6-01-234

F6-01-235

F6-01-236

F6-01-237

F6-01-238

F6-01-239

F6-01-240

F6-01-241

F6-01-242

F6-01-243

F6-01-244

AMBACシステムとバーニア・ロケットの共存

U.C 0150年代現在、宇宙における姿勢制御システムの主流は、AMBACシステムとバーニア・ロケットとアポジモーター式(姿勢制御バーニア)に二分されている。一般にAMBACシステムはMSやMA、バーニア・ロケット式は宇宙

■ AMBACシステム

船頭や船尾などの質量移動によって、姿勢の安定化や変更を行う。手足を振り回すことで、胴体の向きを変更するわけである。AMBACシステムのみで姿勢制御する場合、推進剤をまったく使用せず、アブジモーター併用時も消費量が少ないため、長時間の行動に耐えている。



艦船や宇宙戦闘機などに用いられる。推進剤不要のAMBACシステムの評価は高いが、サイズの都合上、宇宙戦闘に実用的なAMBACユニットを設置するのは難しく、両システムの組み合わせと併用がなされているのが現実である。

■ バーニア・ロケット式

獨逸期の宇宙船から採用された推進剤噴射タイプ。機体の対角線上にあるパーニア・ロケットを一対開き、旋回を行うことが多い。推進剤を必要とするために使用回数が制限されるものの、レスポンスに優れる。宇宙船船殻や宇宙戦闘機の主姿勢制御機構、MSXやMMの補助用などに使用されている。



実用的なAM/ACシステムを構築できない宇宙船船員にとって、数少ない要制制システム。主線道程を用いた方向転換と異なり、その構造は簡潔である。

MORE INFO!

MSの姿勢制御バーニア

AMBACシステムを備えるMSだが、四肢ユニットが使用できない場合への対応や、より高度な姿勢制御能力を求めて姿勢制御バーニア(アポジモーター)を採用する機体が増えた。胸部に兵器を搭載するSMSは両手が塞がっている場合が多く、AMBACシステムを補完する姿勢制御バーニアの必要性は高かったためである。



MAの姿勢制御システム

MACにも、AMBACシステムと姿勢制御バーニアを採用する機体が多く見られる。ただし、MAのAMBACシステムは、1対のアームのみのケースがほとんどで、アプサラシリーズに代表される大気圏内用MACに比べては本格的にAMBACシステムを採用しない。このためか格闘戦での運動性は低いが、姿勢制御バーニアは悪くなかった。



MA-05 ビグロ

格闘系クローアーム兼用のAMBACユニットを装備。AMBACシステムと変形制御バーニアを併用することで、180度旋回を1.3秒で完了し、

SCIENCE
Key Word

AMBACユニットの進化

U.C 0080年代に入ると、四駆以外のAMBACユニットの開発が加速された。その嚆矢となったのが、アナハイム・エレクトロニクス社の「ガンダム開発計画」系MSで採用された可動式推進器で、U.C 0080年代中期に入るとAMBACユニットの性格が強いバインダーが実用化。その後も、多種多様なAMBACユニットが生み出された。



■ バインダー

主にバックバックに接続されるAMBACユニットで、胸部や脚部に比べ遠くにシンプルなのが特徴。偏向推進器タイプが標準的で、メガ粒子砲を装備したグライ・バインダーや可変MS用のウイング・バインダーへと発展した。



■ フィン・ノズル

クロスボーン・バンガードのXM-07 ビギナ・ギナで採用された多連動向推進器兼AMBACユニット。バンダーの発展型と言える。ベルガネMSの可動式スラスタ、シールド、ノズルを改良したものである。



機動戦士ガンダムSEED

TIMELINE

C.E. 71

C.E. 71

2月15日

キラ、バルトフェルド隊と交戦

アフリカ北部の砂漠地帯に不時着したアークエンジェルをバルトフェル平隊が襲撃。キラ・ヤマトがストライクガンダムで迎撃を試みるが、初めての重力下戦闘と慣れない砂



演に翻弄されてしまう。するとそこに「明けの砂流」を名乗るレジスタンスが出現。機動力を活かした巧みな連携でストライクガンダムを保護し、バルトフェルが敵を撤退させた。



C.E.71

2月16日

■ **バルトフェルド隊、タッシルを強襲**

アークエンジェルが「明けの砂漠」と合流したことを受
 け、バルトフェルドはレジスタンスの戦力の切り崩しを面
 策。手始めに「明けの砂漠」が拠点とするカッセルの街を



攻撃した。「明けの砂漠」の固守を強めて調整は実施され、街は炎に包まれてしまう。異変に気付いた「明けの砂漠」が戻った時、すでに街は荒廃と化していた。



C.E.71

2月16日

「明けの砂漠」、バルトフェルド隊と交戦

拠点を破壊されたことに背立つ一部のレジスタンスが報復を決意。リーダーのサイブ・アシュマンにも彼らの船は狙われず、バルトフェルド隊への攻撃が実施された。



だが戦力に勝る相手に正攻法で戦って勝てるはずもなく、「明けの砂漠」は失敗。ストライクガンダムは援護で撤退には成功したが、主眼を失ってしまった。



「砂漠の虎」との遭遇

クルーゼ隊の追撃から逃れ、地球降下を試みるアーケ
ンジェル。だが大気圏突入直前の戦闘でコースが大
きく外れ、ザフトの勢力圏であるアフリカ北部に降下し
てしまった。そんなアーケンジェルを狙い、ザフトの
経路アンドリュー・バルトフェルドが行動を開始する。

C.E. 71

ストライクガンダムとアークエンジェル、アフリカ北部に降下。

バルトフェルト隊、アークエンジェルを襲撃。

『明けの砂漠』、アークエンジェルを
探偵。

アークエンジェル、「明けの砂漠」と
合流。

バルトフェルド散、タッセルを破壊。

「明けの砂漠」、バルトフェルト隊と交戦。大敗を喫する。

ストライクガンダム、「明けの砂漠」を
指揮。

MORE INFO!

レジスタンス「明けの砂漠」

レジスタンス「明けの稲穂」とは、ザパに占領された郷土を解放するために立ち上がった民衆組織である。そのたまたま正統軍に比べるべきと戦力に劣るが、地の利を十分に活かしてこのことや地元との密接な関係が有利に働き、抵抗活動を続けている。ちなみにリーダーのサイーブ・アブマーンはかつて大学教授であり、オーブ連合省長官代表ウズミ・ナラ・アスハとは旧知の知であることが窺われている。



**NEXT
PAGE**

C.E.71 2月20日

キラとカガリ、バルトフェルドと遭遇

補給のためにバナディヤの港を訪れたキラとカガリは反コーディネーター団体「ブルーコスモス」の襲撃を受けるがバルトフェルドに助けられる。キラに興味を持ったバルト

フェルドは銃を突き付け、この戦争に加担する意味を問う。それは、これまで生き延びるために必死だったキラにとって思っても届かない問、掛けだった。



風とほとんど無敵のバルトフェルドに言葉も言い争うも、この時点でキラはバルトフェルドの正体も知らず、知らずとも命を助けられたことになった。

得意にキラとも思えないバルトフェルドは、キラが敵意を感じない様子。それは彼なりにこの戦争とよめる子供を養育している証拠だが、その時のキラにはわからずもなかった。

C.E.71 2月22日

プラント議会で意見対立が表面化

地球連合との間に戦端が開かれたことで、プラント内部では戦争推進派と懸念派の対立が表面化。中でも歴軍派の先鋒である国防委員長バークリッ・ザハは、地球連合

およびナチュラルを強烈に批判。さらに懸念派のリーダーでプラント最高評議会議長のレゲル・クワイの政治手腕をも批判し、プラント内の戦争ムードを助長させた。



マスコを演説して市民の反戦性善論を激しく否定しバークリッは、一方でザハを批判。「戦争は断たれどは実現がない」と断って誓った。

55にこの議会のバークリッは、ラウ・アー・クルーゼと目標を交わすように、クルーゼに描く戦術的性質を提示していたのだ。

C.E.71 2月26日

イザークとディアッカ、バルトフェルド隊と合流

クルーゼ隊からイザーク・ジュールとディアッカ・エルスマンの名が地球に降下。バルトフェルド隊と共にアークエンジェル攻撃に参加することとなった。ところがバルトフェ

ルドはふたりに彼方支援を命じて、自ら戦場に向かう。エリーとの証である赤眼をまもっていたとはいえ、ふたりに協力下戦術の経験がないことを見抜いていたのだ。



口では能力の拡大を勧誘するバルトフェルドだが、実際には連戦に勝てないという点、何かがクルーゼという人物を信じている点があった。

協力関係に不満を感じたイザークとディアッカだが、協力下での砂漠戦はふたりの予想を超えており、バルトフェルドの戦術に迷うしかなかった。

C.E.71 2月28日

バルトフェルド、アークエンジェルを襲撃

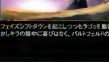
バルトフェルドの巧かな戦術でアークエンジェルは止まらぬが、カガリがスライダースバーで出撃すると形勢が逆転。やむを得ずバルトフェルドは撤退を始めるが、ラウ

を雇ったバルトフェルドは戦いを止めようとしたかった。そしてアークエンジェルを守るキラのスライダースガンダムに一時戦いを仕掛けた。



でそれと聞いていたキラではあったがバルトフェルドは一度に打ち負かすはず。ふたりの戦いはいつまでともなう長く続く。

フェイスシステムを駆使しつづけるキラの姿を驚嘆したスライダースガンダム。しかしキラの服や口まじりに、バルトフェルドの姿が映っていた。



C.E.71

キラとカガリ、補給のために向かったバナディヤの街で、ブルーコスモスの襲撃を受ける。

バルトフェルド、キラとカガリを救出。ふたりを匿藏に送る。

キラ、バルトフェルドから戦争に加担する意味を問われる。

プラント内で、戦争推進派と懸念派の意見対立が表面化。

イザークとディアッカ、地球に降下。バルトフェルド隊と共にアークエンジェル攻撃に参加する。

バルトフェルド隊、進退を開始。

バルトフェルド、キラとの一騎討ちを敢行、敗北する。

MORE INFO!

アフリカ地区の動向

C.E.におけるアフリカ地区は地球連合とプラントの代理戦争の場だった。南部と東部アフリカで構成された南アフリカ統一機構が地球連合寄りだったのに対し、北部と西部アフリカが属するアフリカ同盟は親プラントを表明していたから、どがC.E.71、地球連合下作戦（オペレーション・スズメバチ）を実行したザフトによってアフリカ同盟はザフトの占領下に置かれ、住民は苦しい生活を送らねばならなかった。そのため一部住民の怒から反プラント運動が起こり、それがレジスタンス「砂漠の虎」として結実したのである。



バルトフェルドが乗ったことによりザフトの占領地は逆転。ザフトの進軍が鈍り、住民もは解放されることになった。